

工 事 成 績 採 点 表 (土 木 工 事)

目次

評定者	考 査 項 目	細 別	工 種	様 式	頁
監督員	1. 施工体制	I. 施工体制一般	共 通	1-1	4
		II. 配置技術者（現場代理人等）	共 通	1-1	4
	2. 施工状況	I. 施工管理	共 通	1-2	5
		II. 工程管理	共 通	1-2	5
		III. 安全対策	共 通	1-3	6
		IV. 対外関係	共 通	1-3	6
	3. 出来形及び出来ばえ	I. 出来形	土木工事	1-4	7
			機械設備工事	1-4	7
			電気設備工事、通信設備工事・受変電設備工事	1-5	8
		II. 品質	土木工事	1-6	9
			機械設備工事	1-6	9
			電気設備工事、通信設備工事・受変電設備工事	1-7	10
	5. 創意工夫	I. 創意工夫	共 通	1-8	11
課長	2. 施工状況	II. 工程管理	共 通	2-1	12
		III. 安全対策	共 通	2-1	12
	4. 工事特性	I. 施工条件等への対応	共 通	2-2	13
	6. 社会性等	I. 地域への貢献等	共 通	2-3	14
検査員	7. 法令遵守等		共 通	2-4	15
	2. 施工状況	I. 施工管理	共 通	3-1	16
	3. 出来形及び出来ばえ	I. 出来形	土木工事	3-2	17
			機械設備工事	3-2	17
			電気設備工事、通信設備工事・受変電設備工事	3-3	18
		II. 品質	コンクリート構造物工事	3-4	19
			土工事（切土、盛土、堤防等工事）	3-4	19
			護岸・根固・水制工事	3-5	20
			鋼橋（RC床版はコンクリート構造物に準ずる）・水門・樋門工事	3-5	20
			砂防・治山構造物工事	3-6	21
			舗装工事	3-7	22
			法面工事	3-8	23
			基礎工事及び地盤改良工事	3-9	24
			海岸工事	3-9	24
			コンクリート橋上部工事（PC及びRCを対象）	3-10	25
			塗装工事	3-11	26
			トンネル工事	3-11	26
			植栽工事	3-12	27
			防護柵（網）・標識・区画線等設置工事	3-12	27

工 事 成 績 採 点 表 (土 木 工 事)

目次

評定者 検査員	考 査 項 目	細 別	工 種	様 式	頁
	3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	電線共同溝工事	3-13	28
			機械設備工事	3-14	29
			電気設備工事	3-14	29
			通信設備工事・受変電設備工事	3-15	30
			港湾築造工事	3-16~17	31~32
			下水道工事（処理場・ポンプ場）	3-18	33
			下水道工事（管渠工）	3-19	34
			ほ場整備工事	3-20	35
			管水路工事	3-20	35
			ため池工事	3-21	36
			コンクリート二次製品工事	3-21	36
			水路等補修工事	3-22	37
			補強土壁工事（パネル式含む）	3-22	37
			木製構造物工事（木製治山ダム含む）	3-23	38
			鋼製構造物工事（鋼製えん堤含む）	3-23	38
			地すべり防止工事	3-24	39
			落石防止網（柵）工事	3-25	40
			水管橋工事	3-26	41
			漁礁工事（鋼製漁礁）	3-27	42
			増殖場工事（転石礁）	3-27	42
			漁礁、増殖場工事（コンクリートブロック）	3-28	43
			浚渫工事（海域を含む）、河床掘削工事	3-28	43
			構造物解体・撤去工事	3-29	44
			上記以外の工事又は合併工事	3-29	44
		Ⅲ. 出来ばえ	コンクリート構造物工事、砂防・治山構造物工事、 海岸工事、トンネル工事	3-30	45
			土工事（盛土・築堤工事等）	3-30	45
			切土工事	3-30	45
			護岸・根固・水制工事	3-30	45
			鋼橋・水門・樋門工事	3-30	45
			舗装工事	3-30	45
			法面工事	3-30	45
			基礎工事（地盤改良等を含む）	3-31	46
			コンクリート橋上部工事	3-31	46
			塗装工事（工場塗装を除く）	3-31	46
			植栽工事	3-31	46
			防護柵（網）工事	3-31	46

工 事 成 績 採 点 表 (土 木 工 事)

目次

評定者	考 査 項 目	細 別	工 種	様 式	頁
検査員	3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ. 出来ばえ	標識工事	3-31	46
			区画線工事	3-31	46
			機械設備工事	3-32	47
			電気設備工事	3-32	47
			電線共同溝工事	3-32	47
			通信設備工事・受変電設備工事	3-32	47
			港湾築造工事	3-32	47
			港湾浚渫工事（地盤改良工事を含む）	3-32	47
			ブロック製作工事（ケーソン陸上製作工事を含む）	3-32	47
			下水道工事（処理場・ポンプ場）	3-33	48
			下水道工事（管渠工）	3-33	48
			ほ場整備工事	3-33	48
			管水路工事	3-34	49
			ため池工事	3-34	49
			コンクリート二次製品工事	3-34	49
			水路等補修工事	3-34	49
			補強土壁工事（パネル式含む）	3-34	49
			木製構造物工事（木製治山ダム）	3-34	49
			鋼製構造物工事（鋼製えん堤含む）	3-35	50
			地すべり防止工事	3-35	50
			落石防止網工事、落石防止柵工事	3-35	50
			水管橋工事	3-35	50
			漁礁工事（鋼製漁礁）	3-35	50
			増殖場工事（転石礁）	3-35	50
			漁礁・増殖場工事（コンクリートブロック礁）	3-36	51
			浚渫工事、河床掘削工事	3-36	51
			構造物解体・撤去工事	3-36	51
			上記以外の工事又は合併工事	3-36	51
監督員・検査員	出来形及び品質のばらつきの考え方			4-1	52

工 事 成 績 採 点 表

(監督員)

考 査 項 目	細 別	a	b	c	d	e
1. 施工体制	I. 施工体制 一般	☐ 適切である。 ●評価対象項目 ☐ 「施工プロセス」のチェックリストのうち、施工体制一般について指示事項が無い。 ☐ 監督員から指摘されることなく、適切な時期に適切な施工計画書を提出している。 ☐ 作業分担の範囲を、施工体制台帳及び施工体系図に明確に記載している。 ☐ 社内検査体制が構築され、関係書類、出来形、品質等の社内検査を工事全般にわたって実施して、品質証明に係る体制が有効に機能している。 ☐ 元請が下請の作業成果を検査している。 ☐ 施工計画書の内容と現場施工方法が一致している。 ☐ 緊急指示、災害、事故等が発生した場合の対応が速やかである。 ☐ 現場に対する本店や支店による支援体制を整えている。 ☐ 工場製作期間における技術者を適切に配置している。 ☐ 機械設備、電気設備等について、製作工場における社内検査体制（規格値の設定や確認方法等）を整えている。 ☐ その他 理由： ●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・・・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・・・・・・b 評価値が80%未満・・・・・・・・・・c	☐ ほぼ適切である。	☐ 他の評価に該当しない。	☐ やや不適切である、	☐ 不適切である。
	II. 配置技術者 (現場代理人等)		☐ 適切である。 ●評価対象項目 【全体を評価する項目】 ☐ 「施工プロセス」のチェックリストのうち、配置技術者について指示事項が無い。 ☐ 作業に必要な作業主任者及び専門技術者を選任及び配置している。 【現場代理人を評価する項目】 ☐ 現場代理人が、工事全体を把握している。 ☐ 設計図書と現場との相違があった場合は、監督員と協議するなどの必要な対応を行っている。 ☐ 監督員への報告を適時及び的確に行っている。 【監理（主任）技術者を評価する項目】 ☐ 監督員から指摘されることなく、書類を共通仕様書及び諸基準に基づき適切に作成し、整理している。 ☐ 契約書、設計図書、適用すべき諸基準等を理解し、施工に反映している。 ☐ 施工上の課題となる条件（作業環境、気象、地質等）への対応を図っている。 ☐ 下請の施工体制及び施工状況を把握し、技術的な指導を行っている。 ☐ 監理（主任）技術者が、明確な根拠に基づいて技術的な判断を行っている。 ☐ その他 理由： ●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・・・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・・・・・・b 評価値が80%未満・・・・・・・・・・c	☐ ほぼ適切である。	☐ 他の評価に該当しない。	☐ やや不適切である、

工 事 成 績 採 点 表

(監督員)

考 査 項 目	細 別	a	b	c	d	e	
2. 施工状況	I. 施工管理	☐ 適切である。	☐ ほぼ適切である。	☐ 他の評価に該当しない。	☐ やや不適切である、	☐ 不適切である。	
		●評価対象項目 ☐ 「施工プロセス」のチェックリストのうち、施工管理について指示事項が無い。 ☐ 施工計画書が、設計図書及び現場条件を反映したものとなっている。 ☐ 現場条件の変化に対して、適切に対応している。 ☐ 工事材料の品質に影響が無いよう保管している。 ☐ 日常の出来形管理を、設計図書及び施工計画書に基づき適時及び的確に行っている。 ☐ 日常の品質管理を、設計図書及び施工計画書に基づき適時及び的確に行っている。 ☐ 現場内の整理整頓を日常的に行っている。 ☐ 指定材料の品質証明書及び写真等を整理している。 ☐ 工事打合簿を、不足無く整理している。 ☐ 建設副産物の再利用等への取り組みを適切に行っている。 ☐ 工事全般において、低騒音型、低振動型、排出ガス対策型の建設機械及び車両を使用している。 ☐ その他 理由：				施工管理に関して、監督員が文書による改善指示を行った。	施工管理に関して、監督員からの文書による改善指示に従わなかった。
		●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・・・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・・・・・・b 評価値が80%未満・・・・・・・・・・c ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値 (%)＝該当項目数 ()／評価対象項目数 () ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。					
	II. 工程管理	☐ 適切である	☐ ほぼ適切である	☐ 他の評価に該当しない	☐ やや不適切である、	☐ 不適切である。	
		●評価対象項目 ☐ 「施工プロセス」のチェックリストのうち、工程管理について指示事項が無い。 ☐ 工程に与える要因を的確に把握し、それらを反映した工程表を作成している。 ☐ 実施工程表の作成及びフォローアップを行っており、適切に工程を管理している。※実施工程表は施工計画書で作成する計画工程表に現場の実工程を記入したもの。 ☐ 現場条件の変化への対応が迅速であり、施工の停滞が見られない。 ☐ 時間制限や片側交互通行等の各種制約への対応が適切であり、大きな工程の遅れが無い。 ☐ 工事の進捗を早めるための取り組みを行っている。 ☐ 適切な工程管理を行い、工程の遅れが無い。 ☐ 休日の確保を行っている。 ☐ 計画工程以外の時間外作業がほとんど無い。 ☐ その他 理由：				工程管理に関して、監督員が文書による改善指示を行った。	工程管理に関して、監督員からの文書による改善指示に従わなかった。 又、受注者の責により工期内に工事を完成しなかった。
		●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・・・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・・・・・・b 評価値が80%未満・・・・・・・・・・c ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値 (%)＝該当項目数 ()／評価対象項目数 () ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。					

工 事 成 績 採 点 表

(監督員)

考 査 項 目	細 別	a	b	c	d	e	
2. 施工状況	Ⅲ. 安全対策	☐ 適切である。	☐ ほぼ適切である。	☐ 他の評価に該当しない。	☐ やや不適切である、	☐ 不適切である。	
		●評価対象項目 ☐ 「施工プロセス」のチェックリストのうち、安全対策について指示事項が無い。☐ 災害防止協議会等を1回／月以上行っている。☐ 安全教育及び安全訓練等を半日／月以上実施している。☐ 新規入場者教育の内容に、当該工事の現場特性を反映している。☐ 工事期間を通じて、労働災害及び公衆災害が発生しなかった。☐ 過積載防止に取り組んでいる。☐ 仮設工の点検及び管理を、チェックリスト等を用いて実施している。☐ 保安施設の設置及び管理を、各種基準及び関係者間の協議に基づき実施している。☐ 地下埋設物及び架空線等に関する事故防止対策に取り組んでいる。☐ その他 理由： ●判断基準 評価値が90%以上・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・b 評価値が80%未満・・・c ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値 (%)＝該当項目数 ()／評価対象項目数 () ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。				安全対策に関して、監督員が文書による改善指示を行った。	安全対策に関して、監督員からの文書による改善指示に従わなかった。
	Ⅳ. 対外関係	☐ 適切である	☐ ほぼ適切である	☐ 他の評価に該当しない	☐ やや不適切である、	☐ 不適切である。	
			●評価対象項目 ☐ 「施工プロセス」のチェックリストのうち、対外関係について指示事項が無い。☐ 関係官公庁などと調整を行い、トラブルの発生が無い。☐ 地元との調整を行い、トラブルの発生が無い。☐ 第三者からの苦情が無い。もしくは、苦情に対して適切な対応を行っている。☐ 関連工事との調整を行い、円滑な進捗に取り組んでいる。☐ 工事の目的及び内容を、工事看板などにより地域住民や通行者等に分かりやすく周知している。☐ その他 理由： ●判断基準 評価値が90%以上・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・b 評価値が80%未満・・・c ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値 (%)＝該当項目数 ()／評価対象項目数 () ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。				対外関係に関して、監督員が文書による改善指示を行った。

工 事 成 績 採 点 表

(監督員)

考 査 項 目	a	b	c	d	e	
3. 出来形及び出来ばえ I. 出来形	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね5 0 %以内である。	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね8 0 %以内である。	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、a、bに該当しない。	☐ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で改善指示を行った。	☐ 契約書第1 7 条に基づき、監督員が改造請求を行った。	
※ ばらつきの判断は別紙4 参照。 【※】 ※【工種名】 1. _____ 2. _____						
工 種	a	b	c	d	e	
機械設備工事	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	☐ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で改善指示を行った。	☐ 契約書第1 7 条に基づき、監督員が改造請求を行った。	
※上記欄によらず、当該欄で評価	●評価対象項目 ☐ 据付に関する出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図及び出来形管理表を工夫している。 ☐ 設備全般にわたり、形状及び寸法の実測値が許容範囲内である。 ☐ 施工管理基準の撮影記録が撮影基準を満足している。 ☐ 設計図書で定められていない出来形管理項目について、監督員と協議の上で管理している。 ☐ 不可視部分の出来形を写真撮影している。 ☐ 塗装管理基準の塗膜厚管理を適切にまとめている。 ☐ 溶接管理基準の出来形管理を適切にまとめている。 ☐ 社内の管理基準に基づき管理している。 ☐ 設計図書に定められている予備品に不足が無い。 ☐ 分解整備における既設部品等の摩耗、損傷等について、整備前と整備後の劣化状況及び回復状況を図表等に記録している。 ☐ 設備の据付、固定方法が設計図書又は承諾図書のとおりに施工していることが確認できる。 ☐ その他 { 理由： _____ } ●判断基準 評価値が80%以上 a 評価値が60%以上80%未満 b 評価値が60%未満 c			① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%) 計算の値で評価する。 ③ 評価値 (%) = 該当項目数 () / 評価対象項目数 () ④ なお、削除後の評価対象項目数が2 項目以下の場合はc 評価とする。		

工 事 成 績 採 点 表

(監督員)

考 査 項 目	工 種	a	b	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	電気設備工事 通信設備工事・受変電 設備工事	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	☐ 出来形の測定方法又は測定値が 不適切であったため、監督員が 文書で改善指示を行った。	☐ 契約書第 1 7 条に基づき、監督員 が改造請求を行った。
I. 出来形	※上記欄によらず、当 該欄で評価	●評価対象項目 ☐ 据付に関する出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図及び出来形管理表を工夫している。 ☐ 機器等の測定（試験）結果が、その都度管理図表などに記録され、適切に管理している。 ☐ 不可視部分の出来形を写真撮影している。 ☐ 設計図書に定められていない出来形管理項目について、監督員と協議の上で管理している。 ☐ 設備全般にわたり、形状及び寸法の実測値が許容範囲内である。 ☐ 設備の据付及び固定方法が設計図書又は承諾図書通り施工している。 ☐ 配管及び配線が、設計図書又は承諾図書通りに敷設している。 ☐ 測定機器のキャリブレーションを、定期的の実施している。 ☐ 行先などを表示した名札がケーブルなどに分かり易く堅固に取り付けている。 ☐ 配管及び配線の支持間隔や絶縁抵抗等について、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ☐ 社内の管理基準に基づき管理している。 ☐ その他（理由：） ●判断基準 評価値が80%以上・・・・・・・・a 評価値が60%以上80%未満・・・・b 評価値が60%未満・・・・・・・・c ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値（ %）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ） ④ なお、削除後の評価対象項目数が 2 項目以下の場合は c 評価とする。				

工 事 成 績 採 点 表						(監督員)
考 査 項 目	a	b	c	d	e	
3. 出来形及び出来ばえ II. 品質	☐ 品質の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね5 0 %以内である。	☐ 品質の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね8 0 %以内である。	☐ 品質の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、a、bに該当しない。	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で改善指示を行った。	☐ 契約書第1 7 条に基づき、監督員が改造請求を行った。	
	※ ばらつきの判断は別紙4 参照。					
	① 品質の評定は工事全般を通じて評定するものとする。 ② 品質とは、設計図書に示された工事目的物の規格である。 ③ 品質管理とは、「建設工事施工管理基準」の試験項目、試験基準及び規格値に基づく全ての段階における品質確保のための管理体系である。なお、当該管理基準によりがたい場合等については、監督員と協議の上で品質管理を行うものである。 ④ 品質管理項目を設定していない工事又は試験結果の測定数が3 点未満でばらつきの判断が出来ない場合又は3 点以上であっても管理図表が作成されていない場合は「C」評価とする。 ※【工種名】 1. _____ 2. _____					
工 種	a	b	c	d	e	
機械設備工事	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で改善指示を行った。	☐ 契約書第1 7 条に基づき、監督員が改造請求を行った。	
※上記欄によらず、当該欄で評価	●評価対象項目 ☐ 材料、部品の品質照合の書類（現物照合）の内容が設計図書の仕様を満足している。 ☐ 設備の機能及び性能を、承諾図書のとおり確保している。 ☐ 設計図書の仕様を踏まえた詳細設計を行い、承諾図書として提出している。 ☐ 機器の品質、機能及び性能が設計図書を満足して、成績書にまとめられている。 ☐ 溶接管理基準の品質管理項目について規格値を満足している。 ☐ 塗装管理基準の品質管理項目について規格値を満足している。 ☐ 操作制御設備について、操作スイッチや表示灯を承諾図書のとおり配置し、操作性にすぐれている。 ☐ 操作制御設備の安全装置及び保護装置が承諾図書のとおり機能している。 ☐ 小配管、電気配線・配管が、承諾図書のとおり敷設している。 ☐ 設備の取扱説明書を工夫している。 ☐ 完成図書（取扱説明書）に定期的な点検及び交換を必要とする部品並びに箇所を明示している。 ☐ 機器の配置が点検しやすいよう工夫している。 ☐ 設備の構造や機器の配置が、部品等の交換作業を容易にできるよう工夫している。 ☐ 二次コンクリートの配合試験及び試験練りが実施され、試験成績表にまとめられている。 ☐ パルプ類の平時の状態を示すラベルなどが見やすい状態で表示している。 ☐ 計器類に運転時の適用範囲を見やすく表示している。 ☐ 回転部や高温部等の危険箇所に表示又は防護をしている。 ☐ 構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施していることが確認できる。 ☐ 現地状況を勘案し施工方法等について提案を行うなど、積極的に取り組んでいる。 ☐ その他 { 理由： } ●判断基準 評価値が80%以上・・・・・・・・・・ a 評価値が60%以上80%未満・・・・・・ b 評価値が60%未満・・・・・・・・・・ c ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値（ % ）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ） ④ なお、削除後の評価対象項目数が2 項目以下の場合はc 評価とする。			☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で改善指示を行った。	☐ 契約書第1 7 条に基づき、監督員が改造請求を行った。	

工 事 成 績 採 点 表							(監督員)	
考 査 項 目	工 種	a	b	c	d	e		
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	電気設備工事 通信設備工事・受変電 設備工事	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	☐ 品質関係の測定方法又は測定値 が不適切であったため、監督員 が文書で改善指示を行った。	☐ 契約書第17条に基づき、監督員 が改造請求を行った。		
	※上記欄によらず、当 該欄で評価	●評価対象項目 ☐ 製作着手前に、品質や性能の確保に係る技術検討を実施している。 ☐ 材料、部品の品質照合の結果が、品質保証書等（現物照合を含む）で確認でき、設計図書の仕様を満足している。 ☐ 機器の品質、機能及び性能が、設計図書を満足し、成績書にまとめている。 ☐ 操作スイッチや表示灯が承諾図書のとおり配置され、操作性に優れている。 ☐ ケーブル及び配管の接続などの作業が施工計画書に記載された手順に沿って行われ、不具合が無い。 ☐ 設備の機能及び性能が設計図書の仕様を満足している。 ☐ 操作制御関係の機能及び性能が、仕様を満足しているとともに、必要な安全装置及び保護装置の作動が確認できる。 ☐ 設備の総合性能が、設計図書の仕様を満足している。 ☐ 現場条件によって機器(製品)の機能及び性能が確認できない場合において、工場試験などで確認している。 ☐ 設備全体についての取扱説明書を工夫し、作成（修繕（改造・更新含む）の場合は、修正又は更新）している。 ☐ 完成図書で定期的な点検や交換を要する部品及び箇所を明示している。 ☐ 設備の構造において、点検や消耗品の取替え作業が容易にできるよう工夫している。 ☐ その他（理由：					）	
		●判断基準 評価値が80%以上・・・・・・・・・・ a 評価値が60%以上80%未満・・・・・・ b 評価値が60%未満・・・・・・・・・・ c					① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値（ %）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ） ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。	

工 事 成 績 採 点 表

(監督員)

考 査 項 目	細 別	工 夫 事 項	
5. 創意工夫	I. 創意工夫	【施工】 ☐ 1. 施工に伴う器具、工具、装置等に関する工夫又は設備据付後の試運転調整に関する工夫。 ☐ 2. コンクリート二次製品などの代替材の利用に関する工夫。 ☐ 3. 土工、地盤改良、橋梁架設、舗装、コンクリート打設等の施工に関する工夫。 ☐ 4. 部材並びに機材等の運搬及び吊り方式などの施工方法に関する工夫。 ☐ 5. 設備工事における加工や組立等又は電気工事における配線や配管等に関する工夫。 ☐ 6. 給排水工事や衛生設備工事等における配管又はポンプ類の凍結防止、配管のつなぎ等に関する工夫。 ☐ 7. 照明などの視界の確保に関する工夫。 ☐ 8. 仮排水、仮道路、迂回路等の計画的な施工に関する工夫。 ☐ 9. 運搬車両、施工機械等に関する工夫。 ☐ 10. 支保工、型枠工、足場工、仮栈橋、覆工板、山留め等の仮設工に関する工夫。 ☐ 11. 盛土の締固度、杭の施工高さ等の管理に関する工夫。 ☐ 12. 施工計画書の作成、写真の管理等に関する工夫。 ☐ 13. 出来形又は品質の計測、集計、管理図等に関する工夫。 ☐ 14. 施工管理ソフト、土量管理システム等の活用に関する工夫。 ☐ 15. 情報化施工技術（国土交通省の技術分類で、一般化技術に限る）を活用した工事。 ☐ 16. 情報化施工技術（国土交通省の技術分類で、一般化推進技術、実用化検討技術及び確認段階技術に限る）を活用した工事。※本項目は2点の加点とする。 ☐ 17. 特殊な工法や材料を用いた工事。 ☐ 18. 優れた技術力又は能力として評価する技術を用いた工事。 ☐ 19. その他（ ） 【新技術活用】 ☐ 20. 受注者からの提案によるNETIS登録技術の活用。※活用技術数と内容により1～2点とする。 【品質】 ☐ 21. 土工、設備、電気の品質向上に関する工夫。 ☐ 22. コンクリートの材料、打設、養生に関する工夫。 ☐ 23. 鉄筋、PCケーブル、コンクリート二次製品等の使用材料に関する工夫。 ☐ 24. 配筋、溶接作業等に関する工夫。 ☐ 25. その他（ ） 【安全衛生】 ☐ 26. 建設業労働災害防止協会が定める指針に基づく安全衛生教育を実施している。※本項目は2点の加点とする。 ☐ 27. 安全を確保するための仮設備等に関する工夫。（落下物、墜落・転落、挟まれ、看板、立入禁止柵、手摺り、足場等） ☐ 28. 安全教育、技術向上講習会、安全パトロール等に関する工夫。 ☐ 29. 現場事務所、労務者宿舍等の空間及び設備等に関する工夫。 ☐ 30. 有毒ガス並びに可燃ガスの処理及び粉塵防止並びに作業中の換気等に関する工夫。 ☐ 31. 一般車両突入時の被害軽減方策又は一般交通の安全確保に関する工夫。 ☐ 32. 航行船舶への安全周知又は事故防止等に関する工夫。 ☐ 33. 厳しい作業環境の改善に関する工夫。 ☐ 34. 環境保全に関する工夫。 ☐ 35. その他（ ）	【創意工夫の詳細評価】工夫の内容及び具体的内容を記載
	評 価	評点： _____ 点	

※1. 特に評価すべき創意工夫事例を加点評価する。
※2. 評価は各項目において1つレ点が付されれば1、2点で評価し、最大7点の加点評価とする。
※3. 該当する数と重みを勘案して評定する。1項目1点を目安とするが、内容によっては2点を与えてもよい。
※4. 上記の考查項目の他に評価に値する企業の工夫があれば、その他に具体的内容を記載して加点する。なお、課長が評価する「工事特性」「社会性等」との二重評価は行わない。

工 事 成 績 採 点 表

(課長)

考 査 項 目	細 別	a	b	c	d	e
2. 施工状況	Ⅱ. 工程管理	☐ 優れている	☐ やや優れている	☐ 他の評価に該当しない	☐ やや劣っている	☐ 劣っている
		●評価対象項目 ☐ 隣接する他の工事などとの工程調整に取り組み、遅れを発生させることなく工事を完成させた。 ☐ 地元及び関係機関との調整に取り組み、遅れを発生させることなく工事を完成させた。 ☐ 工程管理を適切に行なったことにより、休日や夜間工事の回避等を行い、地域住民に公共工事に対する好印象を与えた。 ☐ 工程管理に係る積極的な取り組みが見られた。 ☐ 災害復旧工事など特に工期的な制約がある場合において、契約工期（工事中止期間は除く）の５％以上かつ２週間以上の余裕をもって工事を完成させた。 ☐ 工事施工箇所が広範囲に点在している場合において、工程管理を的確に行い、契約工期（工事中止期間は除く）の５％以上かつ２週間以上の余裕をもって工事を完成させた。 ☐ 履行報告が監督員から指摘されることなく適切な時期に適切な内容で提出されている。 ☐ 実施工程表の作成及びフォローアップを行った結果、契約工期（工事中止期間は除く）の５％以上かつ２週間以上の余裕をもって工事を完成させた。※実施工程表は施工計画書で作成する計画工程表に現場の実工程を記入したもの。 ☐ その他 理由：			工程管理に関して、監督員が文書による改善指示を行った。	工程管理に関して、監督員からの文書による改善指示に従わなかった。又、受注者の責により工期内に工事を完成しなかった。
	細 別	a	b	c	d	e
	Ⅲ. 安全対策	☐ 優れている	☐ やや優れている	☐ 他の評価に該当しない	☐ やや劣っている	☐ 劣っている
		●評価対象項目 ☐ 建設労働災害及び公衆災害の防止に向けた取り組みが顕著であった。 ☐ 安全衛生を確保するための管理体制を整備し、組織的に取り組んだ。 ☐ 安全衛生を確保するため、他の模範となるような活動に積極的に取り組んだ。 ☐ 安全対策に関する技術開発や創意工夫に取り組んだ。 ☐ 安全協議会での活動に積極的に取り組んだ。 ☐ 安全対策に係る取り組みが地域から評価された。 ☐ その他 理由：			安全対策に関して、監督員が文書による改善指示を行った。	安全対策に関して、監督員からの文書による改善指示に従わなかった。

工 事 成 績 採 点 表

(課長)

考 査 項 目	細 別	対 応 事 項	【 事 例 】 具 体 的 な 施 工 条 件 等 へ の 対 応 事 例
4. 工事特性	Ⅰ. 施工条件等への対応	Ⅰ 構造物の特殊性への対応 □ 1. 対象構造物の高さ、延長、施工（断）面積、施工深度等の規模が特殊な工事 □ 2. 対象構造物の形状が複雑であることなどから、施工条件が特に変化する工事 □ 3. その他（理由： ） ※上記の対応事項に1つ以上レ点が付けば4点の加点とする。	(1. について) □ 切土の土工量：20万㎡以上 □ 盛土の土工量：15万㎡以上 □ 護岸・築堤の平均高さ：10m以上 □ トンネル(ｼｰﾙﾄﾞ)の直径：8m以上 □ ダム用水門の設計水深：25m以上 □ 樋門又は樋管の内空断面積：15㎡以上 □ 揚排水機場の吐出管径：2,000mm以上 □ 堰又は水門の最大径間長：25m以上 □ 堰又は水門の径間数：3径間以上 □ 堰又は水門の扉体面積：50㎡/門以上 □ トンネル(開削工法)の開削深さ：20m以上 □ トンネル(NATM)の内空平均面積：100㎡以上 □ トンネル(沈埋工法)の内空平均面積：300㎡以上 □ 海岸堤防、護岸、突堤又は離岸堤の水深：10m以上 □ 地滑り防止工：幅100m以上かつ法長150m以上 □ 浚渫工の浚渫土量：100万㎡以上 □ 流路工の計画高水流量：500㎡/s以上 □ 砂防ダムの堤高：15m以上 □ ダムの堤高：150m以上 □ 転流トンネルの流下能力：400㎡/s以上 □ 橋梁下部工の高さ：30m以上 □ 橋梁上部工の最大支間長：100m以上 □ 地盤改良工事の改良長さ：30m以上 □ 基礎工事のマウンド天端：－14m以深 □ ケーソン製作又は据付工事のケーソン質量：2000 t 以上 □ ブロック類製作又は製作工事のブロック質量：50 t 以上 □ 防波堤又は岸壁工事の構造物水深：－14m以上 (2. について) □ 砂防工事などにおいて、現地合わせに基づいて再設計が必要な工事 □ 鉄道に隣接した橋脚の耐震補強工事又は河道内の流水部における橋脚の撤去工事 □ 供用中の道路トンネルの拡幅工事 (3. について) □ その他、構造物固有の難しさへの対応が特に必要な工事 □ その他、技術固有の難しさへの対応が必要である工事 □ 地山強度が低い又は土被りが薄いため、F E M解析などによる検討が必要な工事
		Ⅱ 都市部等の作業環境、社会条件等への対応 ※技術者の専任が必要な工事を対象とする □ 4. 地盤の変形、近接構造物、地中埋設物への影響に配慮する工事 □ 5. 周辺環境条件により、作業条件、工程等に大きな影響を受ける工事 □ 6. 周辺住民等に対する騒音・振動を特に配慮する工事 □ 7. 現道上での交通規制、供用中の港湾施設等の利用規制に大きく影響する工事 □ 8. 緊急時に対応が特に必要な工事 □ 9. 施工箇所が広範囲にわたる工事 □ 10. その他（理由： ） ※上記の対応事項に1つ以上レ点が付けば6点の加点とする。	(4. について) □ 供用中の鉄道又は道路と交差する橋梁などの工事 □ 市街地等の家屋密集地での、鉄道又は道路をアンダーパスする工事 □ 監視などの結果に基づき、工法の変更を行った工事 □ 養殖漁業への工事の影響に特段の配慮が必要な工事 (5. について) □ ガス管、水道管、電話線等の支障物件の移設について、施工工程の管理に特に注意を要した工事 □ 地元調整や環境対策などの制約が特に多い工事 □ 航路の切り回し、船舶航行等による作業の規制により、特に施工工程への影響がある工事 □ 水深25mを超える大水深での潜水作業を行う工事 □ 施設の一部又は全部を停電しなければ施工できない設備工事で施工時間に厳しい制約を受けた工事 □ そのほか各種制約があり、施工に特に厳しい制限を受けた工事 (6. について) □ 市街地での夜間工事 □ D I D 地区での工事 (7. について) □ 日交通量が概ね1万台以上の道路で片側交互通行の交通規制をした工事 □ 供用している自動車専用道路等の路上工事で、交通規制が必要な工事 □ 工事期間中の大半にわたって、交通開放を行うため規制標識の設置撤去を日々行った工事 □ 供用している航路、泊地内で航路標識等の移設が必要な工事 (8. について) □ 緊急時の作業があり、その作業の全てに対応した工事 (9. について) □ 作業現場が広範囲に分布している工事 (10. について) □ 施工ヤードの広さや工事範囲又は高さに制限があり、機械、作業船舶の使用など施工に制約を受けた工事 □ 配電盤等の高圧・特別高圧の充電電路で、活線作業又は活線近接作業となる工事 □ その他、周辺環境又は社会条件への対応が特に必要な工事
		Ⅲ 厳しい自然・地盤条件への対応 ※技術者の専任が必要な工事を対象とする □ 11. 特殊な地盤条件への対応が必要な工事 □ 12. 雨・雪・風・気温・波浪等の自然条件の影響が大きな工事 □ 13. 急峻な地形及び土石流危険渓流内での工事 □ 14. 動植物等の自然環境の保全に特に配慮しなければならない工事 □ 15. 災害復旧工事等で、特に臨機の措置（工事現場での災害等への危険に対する配慮）が必要な工事 □ 16. その他（理由： ） ※上記の対応事項に1つ以上レ点が付けば4点の加点とする。	(11. について) □ 河川内の橋脚工事において地下水位が高く、ウェルポイント工法などによる排水や大規模な山留めなどが必要な工事 □ 支持地盤の形状が複雑なため、深礎杭基礎毎に地質調査を実施するなど支持地盤を確認しながら再設計した工事 □ 施工不可能日が多いことから、施工機械の稼働率や台数などを的確に把握する必要が生じた工事 (12. について) □ 海岸又は河川区域内のため、設計書で計上する以上に波浪等の影響で不稼働日が多く、主に作業船や台船を使用する工事 □ 潜水夫を多用した工事又は波浪や水位変動が大きいため作業構台等を設置した工事 □ 潮流が速い又は潮位差が大きい海域のため、施工工程及び作業時間の制約や刻々と変化する状況を克服する技術を要する工事 (13. について) □ 急峻な地形のため、作業構台や作業床の設置が制限される工事もしくは、命綱を使用する必要があった工事（法面工は除く） □ 斜面上又は急峻な地形直下での工事のため、工事に伴う地滑り防止対策等の安全対策を必要とした工事 □ 砂防指定地、急傾斜地崩壊危険区域、地すべり防止区域、山腹崩壊危険地区又は崩壊土砂流出危険地区に指定された区域内における工事 (14. について) □ イヌワシ等の猛禽類などの貴重な動植物への配慮のため、工程や施工方法に制約を受けた工事 (15. について) □ 災害復旧現場等、工事現場での災害等への危険に対する配慮が、特に必要とした工事 (16. について) □ その他、自然条件又は地盤条件への対応が必要であった工事
		Ⅳ長期工事における安全確保への対応 □ 17. 12ヶ月を超える工期で、事故がなく完成した工事（全面一時中止期間は除く） ※但し、文書注意に至らない事故、改善措置を求める通知に至らない事故は除く。 ※上記の対応事項にレ点が付けば6点の加点とする。	【工事特性の詳細評価】具体的内容を記載
	評 価	評点： 点	

※1. 工事特性は、最大20点の加点評価とする。
※2. 監督員が評価する「5. 創意工夫」との二重評価は行わない。
※3. 評価にあたっては、監督員の意見も参考に評価する。

工 事 成 績 採 点 表

(課長)

考 査 項 目	細 別	a	a ’	b	b ’	c
6. 社会性等	I. 地域への貢献等	☐ 優れている	☐ bより優れている	☐ やや優れている	☐ cより優れている	☐ 他の評価に該当しない
		●評価対象項目 ☐ 周辺環境への配慮に積極的に取り組んだ。 ☐ 現場事務所や作業現場の環境を周辺地域との景観に合わせるなど、積極的に周辺地域との調和を図った。 ☐ 必要に応じたチラシ等の回覧、又は定期的に広報紙の配布や現場見学会等を実施して、積極的に地域とのコミュニケーションを図った。 ☐ 地域に密着したゴミ拾い、道路清掃等のボランティア活動などを積極的に実施し、地域に貢献した。 ☐ 地域が主催するイベントへ積極的に参加し、地域とのコミュニケーションを図った。 ☐ 災害時などにおいて、地域への支援又は行政などによる救援活動への積極的な協力を行った。 ☐ その他 〔理由： 〕 ●判断基準 該当項目が4項目以上・・・a 該当項目が3項目・・・a ’ 該当項目が2項目・・・b 該当項目が1項目・・・b ’ 該当項目が0項目・・・c				

工 事 成 績 採 点 表

(班長又は課長等)

考 査 項 目	法令遵守等の該当項目一覧表																			
7. 法令遵守等	<table><thead><tr><th>措 置 内 容</th><th>点 数</th></tr></thead><tbody><tr><td>☐ 1. 指名停止 3 ヶ月以上</td><td>-20点</td></tr><tr><td>☐ 2. 指名停止 2 ヶ月以上 3 ヶ月未満</td><td>-15点</td></tr><tr><td>☐ 3. 指名停止 1 ヶ月以上 2 ヶ月未満</td><td>-13点</td></tr><tr><td>☐ 4. 指名停止 2 週間以上 1 ヶ月未満</td><td>-10点</td></tr><tr><td>☐ 5. 文書注意（三重県建設工事等資格（指名）停止措置要領第15条に基づく警告又は注意に限る）</td><td>-8点</td></tr><tr><td>☐ 6. □頭注意（三重県建設工事等資格（指名）停止措置要領第15条に基づく警告又は注意に限る）</td><td>-5点</td></tr><tr><td>☐ 7. 事故が発生し、事故調査委員会による調査の結果、改善措置を求める通知があった場合（但し、上記の 1 ～ 6 に該当する場合を除く）</td><td>-5点</td></tr><tr><td>☐ 8. その他 理由：_____</td><td></td></tr></tbody></table>	措 置 内 容	点 数	☐ 1. 指名停止 3 ヶ月以上	-20点	☐ 2. 指名停止 2 ヶ月以上 3 ヶ月未満	-15点	☐ 3. 指名停止 1 ヶ月以上 2 ヶ月未満	-13点	☐ 4. 指名停止 2 週間以上 1 ヶ月未満	-10点	☐ 5. 文書注意（三重県建設工事等資格（指名）停止措置要領第15条に基づく警告又は注意に限る）	-8点	☐ 6. □頭注意（三重県建設工事等資格（指名）停止措置要領第15条に基づく警告又は注意に限る）	-5点	☐ 7. 事故が発生し、事故調査委員会による調査の結果、改善措置を求める通知があった場合（但し、上記の 1 ～ 6 に該当する場合を除く）	-5点	☐ 8. その他 理由：_____		☐ 項目該当なし
	措 置 内 容	点 数																		
	☐ 1. 指名停止 3 ヶ月以上	-20点																		
	☐ 2. 指名停止 2 ヶ月以上 3 ヶ月未満	-15点																		
	☐ 3. 指名停止 1 ヶ月以上 2 ヶ月未満	-13点																		
	☐ 4. 指名停止 2 週間以上 1 ヶ月未満	-10点																		
	☐ 5. 文書注意（三重県建設工事等資格（指名）停止措置要領第15条に基づく警告又は注意に限る）	-8点																		
	☐ 6. □頭注意（三重県建設工事等資格（指名）停止措置要領第15条に基づく警告又は注意に限る）	-5点																		
	☐ 7. 事故が発生し、事故調査委員会による調査の結果、改善措置を求める通知があった場合（但し、上記の 1 ～ 6 に該当する場合を除く）	-5点																		
	☐ 8. その他 理由：_____																			
① 本考查項目（7. 法令遵守等）で評価する事例は、施工にあたって工事関係者が下記の適応事例で上表の措置があった場合に適用する。 ② 「施工」とは、請負契約書の記載内容（工事名、工期、施工場所等）を履行することに限定する。 ③ 「工事関係者」とは、当該工事現場に従事する現場代理人、監理技術者、主任技術者、受注会社の現場従事職員及び当該工事にあたって下請契約し、それを履行するために従事する者に限定する。																				
【上記で評価する場合の適応事例】 1. 入札前に提出した調査資料等が虚偽であった事実が判明した。 2. 承諾なしに権利義務等第三者譲渡又は承継を行った。 3. 宿舍環境等の使用人等に関する労働条件に問題があり、送検等された。 4. 産業廃棄物処理法に違反する不法投棄、砂利採取法に違反する無許可採取等、関係法令に違反する事実が判明した。 5. 当該工事関係者が贈収賄等により逮捕または告訴された。 6. 建設業法に違反する事実が判明した。（例：一括下請け、技術者の専任違反等） 7. 入国管理法に違反する外国人の不法就労者が判明し、送検等された。 8. 使用人等の就労に関する労働基準法に違反する事実が判明し、送検等された。 9. 監督または検査の実施にあたり、職務の執行を妨げた。あるいは不当な政治力等の圧力をかけ、妨害した。 10. 下請代金遅延防止法第 4 条に規定する下請代金の支払いを期日以内に行っていない。あるいは不当に下請代金の額を減じている。あるいはそれに類する行為がある。 11. 過積載等の道路交通法違反により、逮捕または送検等された。 12. 受注企業の社員に「指定暴力団」あるいは「指定暴力団の傘下組織（団体）」に所属する構成員、準構成員、企業舎弟等、暴力団関係者がいることが判明した。 13. 下請けに暴力団関係企業が入っていることが判明した。あるいは暴力団対策法第 9 条に記されている、砂利、砂、防音シート、軍手等の物品の納入、作業員やガードマンの受け入れ、作業員用の自動販売機の設置等を行っている事実が判明した。 14. 安全管理の措置が不適切であったために、死傷者を生じさせた工事関係者事故、または重大な損害を与えた公衆災害を起こした。 15. 施工体制台帳、施工体系図が不備で、監督員から文書等による改善指示を行ったが、これに従わなかった。 16. 受注者が適用除外でないにも関わらず社会保険等に未加入である建設業者と下請契約を締結した。（受注者が直接締結する請負契約に限る。） 17. その他(1～16の適応事例以外に、故意に法令に違反した、故意に適正な公共事業の執行を妨げた、県民等に重大な影響を与えた場合等に理由を記載する。) 理由：_____																				

工 事 成 績 採 点 表

(検査員)

考 査 項 目	細 別	a	b	c	d	e
2. 施工状況	I. 施工管理	☐ 優れている	☐ やや優れている	☐ 他の評価に該当しない	☐ やや劣っている	☐ 劣っている
		●評価対象項目 ☐ 契約書第18条第1項第1号～5号に基づく設計図書の照査を行っていることが確認できる。 ☐ 施工計画書が工事着手前に提出され、所定の項目が記載されているとともに、設計図書の内容及び現場条件を反映したものとなっていることが確認できる。 ☐ 工事期間を通じて、施工計画書の記載内容と現場施工方法が一致していることが確認できる。 ☐ 現場条件又は計画内容に変更が生じた場合は、その都度当該工事着手前に変更の計画書等を提出していることが確認できる。 ☐ 工事材料の品質に影響が無いよう工事材料を保管していることが確認できる。 ☐ 立会確認の手続きを事前に行っていることが確認できる。 ☐ 建設副産物の再利用等への取り組みを行っていることが確認できる。 ☐ 施工体制台帳及び施工体系図を法令等に沿った内容で適確に整備していることが確認できる。 ☐ 下請に対する引き取り（完成）検査を書面で実施していることが確認できる。 ☐ 社内検査体制が確立され、関係書類、出来形、品質等の社内検査を工事全般にわたって行っていることが確認できる。 ☐ 工事の関係書類を不足なく簡潔に整理していることが確認できる。 ☐ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。 ☐ その他（理由：） ●判断基準 評価値が90%以上・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・b 評価値が80%未満・・・c ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値（ ）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ） ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。			施工管理について、監督員が文書による改善指示を行った。	施工管理について、監督員からの文書による改善指示に従わなかった。

工 事 成 績 採 点 表

(検査員)

考 査 項 目	a	a’	b	b’	c	d	e	
3. 出来形及び出来ばえ I. 出来形	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね5 0 %以内で、下記の「評定対象項目」の4 項目以上が該当する。	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね5 0 %以内で、下記の「評定対象項目」の3 項目以上が該当する。	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね8 0 %以内で、下記の「評定対象項目」の3 項目以上が該当する。	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね8 0 %以内で、下記の「評定対象項目」の2 項目以上が該当する。	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、a ～b’ に該当しない。	☐ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	☐ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。	
	※ ばらつきの判断は別紙4 参照。 ☐ 出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図及び出来形管理表を工夫していることが確認できる。 ☐ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。 ☐ 不可視部分の出来形が写真で確認できる。 ☐ 写真管理基準の管理項目を満足している。 ☐ 出来形管理基準の定められていない工種について、監督員と協議の上で管理していることが確認できる。 ☐ その他 理由：							① 出来形の評定は工事全般を通じて評定するものとする。 ② 出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状及び寸法をいう。 ③ 出来形管理とは、「建設工事施工管理基準」の測定項目、測定基準及び規格値に基づき所定の出来形を確保する管理体系であるが、当該管理基準によりがたい場合については、監督員と協議の上で出来形管理を行うものである。 ④ 出来形管理項目を設定していない工事又は測定数が3 点未満でばらつきの判断が出来ない場合又は3 点以上あっても管理図表が作成されていない場合は「C」評価とする。
	工 種	a	a’	b	b’	c	d	e
機械設備工事 ※上記欄によらず、当該欄で評価	優れている	b より優れている	やや優れている	c より優れている	他の評価に該当しない	やや劣っている	劣っている	
	●評価対象項目 ☐ 据付に関する出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図及び出来形管理表を工夫している。 ☐ 設備全般にわたり、形状及び寸法の実測値が、許容範囲であり、出来形の確認ができる。 ☐ 施工管理基準の撮影記録が撮影基準を満足し、出来形の確認ができる。 ☐ 設計図書で定められていない出来形管理項目について、監督員と協議の上で管理していることが確認できる。 ☐ 不可視部分の出来形が写真で確認できる。 ☐ 塗装管理基準の塗膜厚管理を適切にまとめられており、出来形の確認ができる。 ☐ 溶接管理基準の出来形管理を適切にまとめられており、出来形の確認ができる。 ☐ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。 ☐ 設計図書に定められている予備品に不足が無いことが確認できる。 ☐ 分解整備における既設部品等の摩耗、損傷等について、整備前と整備後の劣化状況及び回復状況を図表等に記録していることが確認できる。 ☐ 設備の据付、固定方法が設計図書又は承諾図書のとおり施工していることが確認できる。 ☐ その他 理由：					出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。		出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。
●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・・・・・・a’ 評価値が70%以上80%未満・・・・・・・・b 評価値が60%以上70%未満・・・・・・・・b’ 評価値が60%未満・・・・・・・・c					① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値 (%)＝該当項目数 ()／評価対象項目数 () ④ なお、削除後の評価対象項目数が2 項目以下の場合はc 評価とする。			

工 事 成 績 採 点 表										
(検査員)										
考 査 項 目	工 種	a	a’	b	b’	c	d	e		
3. 出来形及び 出来ばえ I. 出来形	電気設備工事 通信設備工事 受変電設備工事 ※上記欄によらず、当該欄で評価	優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	やや劣っている	劣っている		
		●評価対象項目 ☐ 据付に関する出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図及び出来形管理表を工夫していることが確認できる。 ☐ 機器等の測定（試験）結果が、その都度管理図表などに記録され、適切に管理していることが確認できる。 ☐ 写真管理基準の管理項目を満足している。 ☐ 不可視部分の出来形を写真で確認できる。 ☐ 設計図書で定められていない出来形管理項目について、監督員と協議の上で管理していることが確認できる。 ☐ 設備全般にわたり、形状及び寸法の実測値が許容範囲内であることが確認できる。 ☐ 設備の据付、固定方法が、設計図書又は承諾図書の通り施工していることが確認できる。 ☐ 配管及び配線が、設計図書又は承諾図書通り敷設していることが確認できる。 ☐ 行き先などを表示した名札が、ケーブルなどに分かり易く堅固に取り付けている。 ☐ 配管及び配線の支持間隔や絶縁抵抗等について、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ☐ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。 ☐ その他 理由：							出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。
		●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・・a’ 評価値が70%以上80%未満・・・・b 評価値が60%以上70%未満・・・・b’ 評価値が60%未満・・・・・・・・c					① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値（ %）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ） ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。			

工 事 成 績 採 点 表

(検査員)

考 査 項 目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e																																												
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	コンクリート 構造物工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ☐ [関連基準、建設工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ ばらつきの判断は別紙 4 参照。 ●評価対象項目 ☐ コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質（強度・w／c、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等）が確認できる。 ☐ コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。 ☐ 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。 ☐ 施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。（寒中及び暑中コンクリート等を含む） ☐ コンクリートの圧縮強度を管理し、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っていることが確認できる。 ☐ コンクリートの打設前に、打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。 ☐ 鉄筋の品質が、証明書類で確認できる。 ☐ コンクリート打設までにさび、どろ、油等の有害物が鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。 ☐ 鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ☐ 圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っていることが確認できる。 ☐ コンクリートの養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ☐ スーパーの品質及び個数が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ☐ 有害なクラックが無い。 ☐ コールドジョイントやジャンカが無く、クラックや表面気泡（あばた）の状況からコンクリートの打設・締固めが良好に行われていたことが確認できる。 ☐ その他 理由：					☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。																																												
						● <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">ばらつきで判断可能</td><td rowspan="2">ばらつきで判断不可能</td></tr><tr><td>50%以下</td><td>80%以下</td><td>80%を超える</td></tr><tr><td rowspan="4">評価値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75%以上 90%未満</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上 75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td><td>c</td></tr></table> 注 試験結果の測定数が少なくばらつきの判断ができない場合(3点未満)、又は3点以上あっても管理図表が作成されていない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。 <table><tr><td colspan="2">① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="2">② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="2">③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="2">④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。</td><td></td><td></td></tr></table>			ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能	50%以下	80%以下	80%を超える	評価値	90%以上	a	a'	b	b	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'	60%以上 75%未満	b	b'	c	c	60%未満	b'	c	c	c	① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。				② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。				③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()				④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。			
		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能																																															
		50%以下	80%以下	80%を超える																																																
評価値	90%以上	a	a'	b	b																																															
	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'																																															
	60%以上 75%未満	b	b'	c	c																																															
	60%未満	b'	c	c	c																																															
① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。																																																				
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。																																																				
③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()																																																				
④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。																																																				
	土工事（切土、盛土、堤防等工事）	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ☐ [関連基準、建設工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ ばらつきの判断は別紙 4 参照。 ●評価対象項目 ☐ 雨水による崩壊が起こらないように、排水対策を実施していることが確認できる。 ☐ 段切りを設計図書に基づき行っていることが確認できる。 ☐ 置換えのための掘削を行うにあたり、掘削面以下を乱さないように施工していることが確認できる。 ☐ 締固めが設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。 ☐ 一層あたりのまき出し厚を管理していることが確認できる。 ☐ 芝付け及び種子吹付を設計図書に定められた条件で行っていることが確認できる。 ☐ 構造物周辺の締固めを設計図書に定められた条件で行っていることが確認できる。 ☐ 土羽土の土質が設計図書を満足していることが確認できる。 ☐ C B R 試験などの品質管理に必要な試験を行っていることが確認できる。 ☐ 法面に有害な亀裂が無い。 ☐ 伐開除根作業が設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。 ☐ その他 理由：					☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。																																												
					● <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">ばらつきで判断可能</td><td rowspan="2">ばらつきで判断不可能</td></tr><tr><td>50%以下</td><td>80%以下</td><td>80%を超える</td></tr><tr><td rowspan="4">評価値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75%以上 90%未満</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上 75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td><td>c</td></tr></table> 注 試験結果の測定数が少なくばらつきの判断ができない場合(3点未満)、又は3点以上あっても管理図表が作成されていない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。 <table><tr><td colspan="2">① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="2">② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="2">③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="2">④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。</td><td></td><td></td></tr></table>			ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能	50%以下	80%以下	80%を超える	評価値	90%以上	a	a'	b	b	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'	60%以上 75%未満	b	b'	c	c	60%未満	b'	c	c	c	① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。				② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。				③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()				④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。				
		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能																																															
		50%以下	80%以下	80%を超える																																																
評価値	90%以上	a	a'	b	b																																															
	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'																																															
	60%以上 75%未満	b	b'	c	c																																															
	60%未満	b'	c	c	c																																															
① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。																																																				
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。																																																				
③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()																																																				
④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。																																																				

工 事 成 績 採 点 表

(検査員)

考 査 項 目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e																																															
3. 出来形及び出来ばえ II. 品質	植栽工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ☐ [関連基準、建設工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ ばらつきの判断は別紙4参照。					品質関係の測定方法又は測定値が不適切 ☐ であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	品質関係の測定方法又は測定値が不適切 ☐ であったため、検査員が修補指示を行った。																																															
	●評価対象項目 ☐ 活着が促されるよう管理していることが確認できる。 ☐ 樹木などに損傷、はちくずれ等が無いよう保護養生を行っていることが確認できる。 ☐ 樹木等の生育に害のある害虫等がないことが確認できる。 ☐ 施工完了後、余剰枝の剪定、整形その他必要な手入れを行っていることが確認できる。 ☐ 肥料が直接樹木の根に触れないよう均一に施肥していることが確認できる。 ☐ 植生する樹木に応じて、余裕のある植穴を掘り植穴底部を耕していることが確認できる。 ☐ 添木をぐらつきがないよう設置していることが確認できる。 ☐ 樹名板を視認しやすい場所に据付けていることが確認できる。 ☐ その他 理由：					●<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">ばらつきで判断可能</td><td rowspan="2">ばらつきで判断不可能</td></tr><tr><td>50%以下</td><td>80%以下</td><td>80%を超える</td></tr><tr><td rowspan="4">評価値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75%以上 90%未満</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上 75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td><td>c</td></tr></table> 注 試験結果の測定数が少なくばらつきの判断ができない場合(3点未満)、又は3点以上あっても管理図表が作成されていない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。 <table><tr><td colspan="3">① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="3">② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="3">③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="3">④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。</td><td></td><td></td></tr></table>			ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能	50%以下	80%以下	80%を超える	評価値	90%以上	a	a'	b	b	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'	60%以上 75%未満	b	b'	c	c	60%未満	b'	c	c	c	① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。					② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。					③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()					④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。			
		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能																																																		
		50%以下	80%以下	80%を超える																																																			
評価値	90%以上	a	a'	b	b																																																		
	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'																																																		
	60%以上 75%未満	b	b'	c	c																																																		
	60%未満	b'	c	c	c																																																		
① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。																																																							
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。																																																							
③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()																																																							
④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。																																																							
	防護柵（網）・標識・区画線等設置工事	a	a'	b	b'	c	d	e																																															
	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ☐ [関連基準、建設工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ ばらつきの判断は別紙4参照。					品質関係の測定方法又は測定値が不適切 ☐ であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	品質関係の測定方法又は測定値が不適切 ☐ であったため、検査員が修補指示を行った。																																																
●評価対象項目 ☐ 防護柵設置要綱、視線誘導標設置基準、道路標識ハンドブック等の規定を満足していることが確認できる。 ☐ 防護柵等の床掘りの仕上がり面において、地山の乱れや不陸が生じないように施工していることが確認できる。 ☐ 防護柵等の基礎工の施工にあたって、無筋及び鉄筋コンクリートの規定を満足していることが確認できる。 ☐ 防護柵等の支柱の施工にあたって、既設舗装面へ影響が無いよう施工していることが確認できる。 ☐ 基礎設置箇所について地盤の地耐力を把握して、施工していることが確認できる。 ☐ 防護柵の支柱の根入長が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ☐ ガードケーブルを支柱に取付ける場合、設計図書に定められた所定の張力を与えているのが確認できる。 ☐ ガードケーブルの端末支柱を土中に設置する場合、打設したコンクリートが設計図書に定められた強度以上であることが確認できる。 ☐ ペイント式(常温式)区画線に使用するシナーの使用量が、10%以下であることが確認できる。 ☐ 区画線の厚さが見本等で設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ☐ 区画線施工後の昼間及び夜間の視認性が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ☐ 区画線の施工にあたって 設置路面の水分、泥、砂じん及びほこりを取り除いて行っていることが確認できる。 ☐ 区画線を消去の場合、表示材（塗料）のみの除去となっており、路面への影響が最小限となっていることが確認できる。 ☐ プライマーの施工にあたって、路面に均等に塗布していることが確認できる。 ☐ 区画線の材料が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ☐ その他 理由：					●<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">ばらつきで判断可能</td><td rowspan="2">ばらつきで判断不可能</td></tr><tr><td>50%以下</td><td>80%以下</td><td>80%を超える</td></tr><tr><td rowspan="4">評価値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75%以上 90%未満</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上 75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td><td>c</td></tr></table> 注 試験結果の測定数が少なくばらつきの判断ができない場合(3点未満)、又は3点以上あっても管理図表が作成されていない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。 <table><tr><td colspan="3">① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="3">② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="3">③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="3">④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。</td><td></td><td></td></tr></table>			ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能	50%以下	80%以下	80%を超える	評価値	90%以上	a	a'	b	b	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'	60%以上 75%未満	b	b'	c	c	60%未満	b'	c	c	c	① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。					② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。					③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()					④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。				
		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能																																																		
		50%以下	80%以下	80%を超える																																																			
評価値	90%以上	a	a'	b	b																																																		
	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'																																																		
	60%以上 75%未満	b	b'	c	c																																																		
	60%未満	b'	c	c	c																																																		
① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。																																																							
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。																																																							
③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()																																																							
④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。																																																							

工 事 成 績 採 点 表

(検査員)

考 査 項 目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	機械設備工事	優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。
	●評価対象項目 □ 材料、部品の品質照合の書類（現物照合）を整理し品質の確認ができる。 □ 設備の機能及び性能が、承諾図書のとおり確保され、品質の確認ができる。 □ 設計図書の仕様を踏まえた詳細設計を行い、承諾図書として提出していることが確認できる。 □ 機器の機能及び性能に係わる成績書が整理され、品質の確認ができる。 □ 溶接管理基準の品質管理項目について、品質管理書類を整理し品質の確認ができる。 □ 塗装管理基準の品質管理項目について、品質管理書類を整理し品質の確認ができる。 □ 操作制御設備について、操作スイッチや表示灯を承諾図書のとおり配置し、操作性にすぐれていることが確認できる。 □ 操作制御設備の安全装置及び保護装置の機能・性能確認試験について、試験書類を整理し品質の確認ができる。 □ 小配管、電気配線、配管が承諾図書のとおり敷設していることが確認できる。 □ 設備の取扱説明書を工夫していることが確認できる。 □ 完成図書（取扱説明書）に部品等の点検及び交換方法について、まとめていることが確認できる。 □ 機器の配置が点検しやすいよう工夫していることが確認できる。 □ 設備の構造や機器の配置が、交換頻度の高い部品等の交換作業を容易に出来るよう工夫していることが確認できる。 □ 二次コンクリートの配合試験及び試験練りを実施し、試験成績表にまとめていることが確認できる。 □ バルブ類の平時の状態を示すラベルなどが見やすい状態で表示していることが確認できる。 □ 計器類に運転時の適用範囲を見やすく表示していることが確認できる。 □ 回転部や高温部等の危険箇所に表示又は防護をしていることが確認できる。 □ 構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施していることが確認できる。 □ 現地状況を勘案し、施行方法等についての提案を行うなど積極的に取り組んでいることが確認できる。 □ その他 理由：	① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値（ %）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ） ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。						
	電気設備工事	a	a'	b	b'	c	d	e
		優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
		●評価対象項目 □ 製作着手前に、品質や性能の確保に係る技術検討を実施していることが確認できる。 □ 材料・部品の品質照合の結果が、品質保証書等（現物照合を含む）で確認でき、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 機器の品質、機能及び性能が設計図書を満足して、成績書にまとめられていることが確認できる。 □ 操作スイッチや表示灯が承諾図書のとおり配置され、操作性に優れていることが確認できる。 □ ケーブル及び配管の接続などの作業が、施工計画書に記載された手順に沿って行われ、不具合が無いことが確認できる。 □ 設備の機能及び性能が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 操作制御関係の機能及び性能が、設計図書の仕様を満足しているとともに、必要な安全装置及び保護装置の作動が確認できる。 □ 設備の総合性能が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 現場条件によって機器（製品）の機能及び性能が確認できない場合において、工場試験などで確認していることが確認できる。 □ 設備全体についての取扱説明書を工夫し、作成（修繕（改造・更新含む）の場合は、修正又は更新）していることが確認できる。 □ 完成図書で定期的な点検や交換を要する部品及び箇所を明示していることが確認できる。 □ 設備の構造において、点検や消耗品の取替え作業が容易にできるよう工夫していることが確認できる。 □ その他 理由：	① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値（ %）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ） ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。					

工 事 成 績 採 点 表

(検査員)

考 査 項 目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e																																											
3. 出来形及び出来ばえ II. 品質	ほ場整備工事 ・整地工等 ・進入路工 ・暗渠排水工 ・用・排水路工 ・道路工 ・二次製品	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ☐ [関連基準、建設工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ ばらつきの判断は別紙4参照。					品質関係の測定方法又は測定値が不適切 ☐ であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	品質関係の測定方法又は測定値が不適切 ☐ であったため、検査員が修補指示を行った。																																											
	●評価対象項目 ☐ 設計図書で定められている品質管理が実施されている。 ☐ 材料の品質規定証明書が整備されている。 ☐ 地区内の地表水及び地下水を排除しドライの状態で行っている。 ☐ 石礫、根株等の除去は設計図書に定められたとおり実施されている。 ☐ 表土剥ぎ取り、基盤切盛、畦畔築立、基盤整地、表土整地は、設計図書により施工されている。 ☐ 進入路について耕作に支障がないように施工されている。 ☐ 暗渠排水工は設計図書により施工されている。 ☐ 用・排水路の縦断勾配等については、ほ場面標高等を考慮して施工されている。 ☐ 用・排水路の施工基面が平滑に仕上げられている。 ☐ 構造物側面の埋め戻しについては、設計図書で示す条件により締め固めが実施されている。 ☐ 二次製品の吊り込み、据付けの際に常に十分な注意を払っていることが確認できる。 ☐ その他 理由：					●<table><tr><td></td><td colspan="3">ばらつきで判断可能</td><td rowspan="2">ばらつきで判断不可能</td></tr><tr><td></td><td>50%以下</td><td>80%以下</td><td>80%を超える</td></tr><tr><td rowspan="4">評価値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75%以上 90%未満</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上 75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td><td>c</td></tr></table> 注 試験結果の測定数が少なくばらつきの判断ができない場合(3点未満)、又は3点以上あっても管理図表が作成されていない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。 <table><tr><td>① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()</td><td></td><td></td></tr><tr><td>④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。</td><td></td><td></td></tr></table>				ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能		50%以下	80%以下	80%を超える	評価値	90%以上	a	a'	b	b	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'	60%以上 75%未満	b	b'	c	c	60%未満	b'	c	c	c	① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。			② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。			③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()			④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。			
	ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能																																															
	50%以下	80%以下	80%を超える																																																
評価値	90%以上	a	a'	b	b																																														
	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'																																														
	60%以上 75%未満	b	b'	c	c																																														
	60%未満	b'	c	c	c																																														
① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。																																																			
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。																																																			
③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()																																																			
④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。																																																			
	管水路工事	a	a'	b	b'	c	d	e																																											
		品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ☐ [関連基準、建設工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ ばらつきの判断は別紙4参照。					品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 又は、検査員が文書で改善指示を行った。	品質関係の測定方法又は測定値が不適切 ☐ であったため、検査員が修補指示を行った。																																											
		●評価対象項目 ☐ 設計図書で定められている品質管理が実施されている。 ☐ 材料の品質規定証明書が整備されている。 ☐ 設計図書で示す条件により締め固めが実施されている。 ☐ 管の両側面が均等に埋め戻されていることが確認できる。 ☐ 管の吊り込み、据付けの際に常に十分な注意を払っていることが確認できる。 ☐ コンクリート構造物をきめ細かな施工を行っている。 ☐ 管体基礎基盤の整形、清掃、湧水処理が適切に実施されていることが確認できる。 ☐ 管の接合にあたり、設計図書に基づき適切に施工されていることが確認できる。 ☐ 管からの漏水がない。 ☐ 薬液注入の採用に伴う事前調査を実施し、着手前にこれに基づいた施工計画書が提出されていることが確認できる。 ☐ ポリエチレンスリーブの被覆は損傷させないよう十分注意して取り扱っている。 ☐ 管弁類の保管にあたり変形及び塗装面に損傷を与えないよう適切に管理されていることが確認できる。 ☐ その他 理由：					●<table><tr><td></td><td colspan="3">ばらつきで判断可能</td><td rowspan="2">ばらつきで判断不可能</td></tr><tr><td></td><td>50%以下</td><td>80%以下</td><td>80%を超える</td></tr><tr><td rowspan="4">評価値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75%以上 90%未満</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上 75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td><td>c</td></tr></table> 注 試験結果の測定数が少なくばらつきの判断ができない場合(3点未満)、又は3点以上あっても管理図表が作成されていない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。 <table><tr><td>① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()</td><td></td><td></td></tr><tr><td>④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。</td><td></td><td></td></tr></table>				ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能		50%以下	80%以下	80%を超える	評価値	90%以上	a	a'	b	b	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'	60%以上 75%未満	b	b'	c	c	60%未満	b'	c	c	c	① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。			② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。			③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()			④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。		
	ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能																																															
	50%以下	80%以下	80%を超える																																																
評価値	90%以上	a	a'	b	b																																														
	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'																																														
	60%以上 75%未満	b	b'	c	c																																														
	60%未満	b'	c	c	c																																														
① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。																																																			
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。																																																			
③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()																																																			
④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。																																																			

工 事 成 績 採 点 表

(検査員)

考 査 項 目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e																																																		
3. 出来形及び出来ばえ II. 品質	ため池工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ☐〔関連基準、建設工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験〕 ※ ばらつきの判断は別紙4参照。					品質関係の測定方法又は測定値が不適切 ☐であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	品質関係の測定方法又は測定値が不適切 ☐であったため、検査員が修補指示を行った。																																																		
	●評価対象項目 ☐ 設計図書で定められている品質管理が実施されている。 ☐ 材料の品質規定証明書が整備されている。 ☐ 盛り立て要領書に示された規定に従い適切に実施されている。 ☐ 施工基面及び法面が平滑に仕上げられている。 ☐ 段切り等を施工前に適切に行っている。 ☐ 法面に有害なクラックや損傷部がない。 ☐ 雨水による崩壊が起こらないように排水対策を実施している。 ☐ 気象条件を考慮した施工が確認できる。 ☐ 鉄筋の組立、継ぎ手部、かぶりは設計図書に示されたとおりに施工している。 ☐ コンクリートの供試体が当該現場のものであることが確認できる。 ☐ その他 理由：					●<table><tr><td colspan="2"></td><td colspan="3">ばらつきで判断可能</td><td rowspan="2">ばらつきで判断不可能</td></tr><tr><td colspan="2"></td><td>50%以下</td><td>80%以下</td><td>80%を超える</td></tr><tr><td rowspan="4">評価値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75%以上 90%未満</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上 75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td><td>c</td></tr></table> 注 試験結果の測定数が少なくばらつきの判断ができない場合(3点未満)、又は3点以上あっても管理図表が作成されていない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。 <table><tr><td colspan="2">① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="2">② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="2">③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="2">④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。</td><td></td><td></td></tr></table>						ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能			50%以下	80%以下	80%を超える	評価値	90%以上	a	a'	b	b	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'	60%以上 75%未満	b	b'	c	c	60%未満	b'	c	c	c	① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。				② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。				③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()				④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。				
		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能																																																					
		50%以下	80%以下	80%を超える																																																						
評価値	90%以上	a	a'	b	b																																																					
	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'																																																					
	60%以上 75%未満	b	b'	c	c																																																					
	60%未満	b'	c	c	c																																																					
① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。																																																										
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。																																																										
③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()																																																										
④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。																																																										
	コンクリート二次製品工事 ・U字溝 ・L型 ・ボックスカルバート ・ブロック積	a	a'	b	b'	c	d	e																																																		
		品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ☐〔関連基準、建設工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験〕 ※ ばらつきの判断は別紙4参照。					品質関係の測定方法又は測定値が不適切 ☐であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	品質関係の測定方法又は測定値が不適切 ☐であったため、検査員が修補指示を行った。																																																		
		●評価対象項目 ☐ 設計図書で定められている品質管理が実施されている。 ☐ 材料の品質規定証明書が整備されている。 ☐ 施工基面が平滑に仕上げられている。 ☐ 設計図書で示す条件により締め固めが実施されている。 ☐ 護岸等の根入れが図面どおり実施されていることが確認できる。 ☐ 二次製品の吊り込み、据付けの際に常に十分な注意を払っていることが確認できる。 ☐ 既設構造物（路面を含む）との取り合わせが良い。 ☐ 製品の構造が設計条件を満たしていることが確認できる。 ☐ 継ぎ目の施工は入念に行われていることが確認できる。 ☐ 基礎砂利等の転圧は適切に行われていることが確認できる。 ☐ その他 理由：					●<table><tr><td colspan="2"></td><td colspan="3">ばらつきで判断可能</td><td rowspan="2">ばらつきで判断不可能</td></tr><tr><td colspan="2"></td><td>50%以下</td><td>80%以下</td><td>80%を超える</td></tr><tr><td rowspan="4">評価値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75%以上 90%未満</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上 75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td><td>c</td></tr></table> 注 試験結果の測定数が少なくばらつきの判断ができない場合(3点未満)、又は3点以上あっても管理図表が作成されていない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。 <table><tr><td colspan="2">① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="2">② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="2">③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="2">④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。</td><td></td><td></td></tr></table>						ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能			50%以下	80%以下	80%を超える	評価値	90%以上	a	a'	b	b	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'	60%以上 75%未満	b	b'	c	c	60%未満	b'	c	c	c	① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。				② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。				③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()				④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。			
		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能																																																					
		50%以下	80%以下	80%を超える																																																						
評価値	90%以上	a	a'	b	b																																																					
	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'																																																					
	60%以上 75%未満	b	b'	c	c																																																					
	60%未満	b'	c	c	c																																																					
① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。																																																										
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。																																																										
③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()																																																										
④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。																																																										

工 事 成 績 採 点 表

(検査員)

考 査 項 目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e																																											
3. 出来形及び出来ばえ II. 品質	木製構造物工事 (木製治山ダム含む)	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ☐ [関連基準、建設工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ ばらつきの判断は別紙4参照。					品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 ☐	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。 ☐																																											
	●評価対象項目 ☐ 設計図書に定められている品質等が確認できる。 ☐ 地山との取り合わせが適切に行われている。 ☐ 部材に地域材・間伐材の使用が図られている。 ☐ 有害な腐れ、割れ等の欠陥がないことが確認できる。 ☐ 施工基面が平滑に仕上っている。 ☐ ボルトの締め付け、または鉄筋の打ち込みを適切に行っている。 ☐ 中詰材の間隙を十分に突き固め充填していることが確認できる。 ☐ 袖かくし工、水叩き工等の取り付け、かみ合わせ等が適切である。 ☐ 構造物の部材の組み立て、仕上げに変形やゆりみがない。 ☐ 木材・木製品どうしの接続が良好で規定どおり施工されている。 ☐ その他 理由：					●<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">ばらつきで判断可能</td><td rowspan="2">ばらつきで判断不可能</td></tr><tr><td>50%以下</td><td>80%以下</td><td>80%を超える</td></tr><tr><td rowspan="4">評価値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75%以上 90%未満</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上 75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td><td>c</td></tr></table> 注 試験結果の測定数が少なくばらつきの判断ができない場合(3点未満)、又は3点以上あっても管理図表が作成されていない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。 <table><tr><td>① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()</td><td></td><td></td></tr><tr><td>④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。</td><td></td><td></td></tr></table>					ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能	50%以下	80%以下	80%を超える	評価値	90%以上	a	a'	b	b	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'	60%以上 75%未満	b	b'	c	c	60%未満	b'	c	c	c	① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。			② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。			③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()			④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。			
		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能																																														
		50%以下	80%以下	80%を超える																																															
評価値	90%以上	a	a'	b	b																																														
	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'																																														
	60%以上 75%未満	b	b'	c	c																																														
	60%未満	b'	c	c	c																																														
① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。																																																			
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。																																																			
③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()																																																			
④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。																																																			
	鋼製構造物工事 (鋼製えん堤含む)	a	a'	b	b'	c	d	e																																											
		品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ ☐ [関連基準、建設工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ ばらつきの判断は別紙4参照。					品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 ☐	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。 ☐																																											
		●評価対象項目 ☐ コンクリート打設時の必要な供試体を採取し、強度、スランプ・空気量等が確認できる。 ☐ 施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ、締固時のバイブレーターの機種、養生方法等、適切に行っている。（寒中及び暑中コンクリート等を含む） ☐ 型枠、支保工の取り外し時期が適正に管理されている。 ☐ 地山との取り合わせが適切に行われている。 ☐ 鉄筋又は鋼材の規格がシットで確認できる。 ☐ 鋼材の組み立てが適正であり、ボルトの締め付けも適切に実施されている。 ☐ 中詰材の詰め込みが適切であり、空隙が少なくなるよう施工されている。 ☐ 施工基面を平滑に仕上っている。 ☐ 鋼材の保管管理が適正であることが確認できる。 ☐ 鋼材の組立・加工が適正であることが確認できる。 ☐ ボルトの締付機、測定機器のキャリブレーションを実施している。 ☐ 掘削を行うにあたり、掘削面以下を乱さないように施工している。 ☐ 部材の表面に傷・さびがない。発生した場合はさびの除去及び上塗り塗装等の仕上がりが丁寧にされている。 ☐ その他 理由：					●<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">ばらつきで判断可能</td><td rowspan="2">ばらつきで判断不可能</td></tr><tr><td>50%以下</td><td>80%以下</td><td>80%を超える</td></tr><tr><td rowspan="4">評価値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75%以上 90%未満</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上 75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td><td>c</td></tr></table> 注 試験結果の測定数が少なくばらつきの判断ができない場合(3点未満)、又は3点以上あっても管理図表が作成されていない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。 <table><tr><td>① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()</td><td></td><td></td></tr><tr><td>④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。</td><td></td><td></td></tr></table>					ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能	50%以下	80%以下	80%を超える	評価値	90%以上	a	a'	b	b	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'	60%以上 75%未満	b	b'	c	c	60%未満	b'	c	c	c	① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。			② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。			③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()			④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。		
		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能																																														
		50%以下	80%以下	80%を超える																																															
評価値	90%以上	a	a'	b	b																																														
	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'																																														
	60%以上 75%未満	b	b'	c	c																																														
	60%未満	b'	c	c	c																																														
① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。																																																			
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。																																																			
③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()																																																			
④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。																																																			

工 事 成 績 採 点 表

(検査員)

考 査 項 目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e																																													
3. 出来形及び出来ばえ II. 品質	構造物解体・撤去工事	□ 評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞					品質関係の測定方法又は測定値が不適切で □ あったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。																																													
	●評価対象項目 □ 現地状況を把握し、施工方法等について提案を行うなど積極的な取り組みが確認できる。 □ 施工計画に定められた計画のとおり管理され、各段階における確認及び記録の方法が適切に実施されていることが確認できる。 □ 周辺環境に配慮し、解体方法・手順に関して適切に行われていることが確認できる。 □ 混合廃棄物を排出しないよう分別、再資源化を適切に行っていることが確認できる。 □ 粉塵等が飛散することがないよう適切に施工されていることが確認できる。 □ 騒音・振動に対する配慮が適切に行われていることが確認できる。 □ 埋設物の撤去状況が記録で確認できる。 □ 工事写真、施工管理記録等において、設計図書を満足していることが確認できる。 □ 他の構造物等に損傷や機能上の悪影響を及ぼしていないことが確認できる。 □ 構造物撤去後の空洞等の処理や締固め等の処理が適正に行われていることが確認できる。 □ その他 理由：																																																				
	上記以外の工事又は合併工事	a	a'	b	b'	c	d	e																																													
	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価値）から判断する。＜判断基準参照＞ □ 〔関連基準、建設工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験〕 ※ ばらつきの判断は別紙4参照。					品質関係の測定方法又は測定値が不適切で □ あったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。																																														
		●評価対象項目 理由： 理由： 理由： 理由： 理由： 理由： 理由： 理由： <td colspan="2"> ●<table><tr><td colspan="2"></td><td colspan="2">ばらつきで判断可能</td><td rowspan="2">ばらつきで判断不可能</td></tr><tr><td colspan="2"></td><td>50%以下</td><td>80%以下</td><td>80%を超える</td></tr><tr><td rowspan="4">評価値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75%以上 90%未満</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上 75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td><td>c</td></tr></table> 注 試験結果の測定数が少なくばらつきの判断ができない場合(3点未満)、又は3点以上あっても管理図表が作成されていない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。 <td colspan="2"> <table><tr><td>① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()</td><td></td><td></td></tr><tr><td>④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。</td><td></td><td></td></tr></table> </td></td>					●<table><tr><td colspan="2"></td><td colspan="2">ばらつきで判断可能</td><td rowspan="2">ばらつきで判断不可能</td></tr><tr><td colspan="2"></td><td>50%以下</td><td>80%以下</td><td>80%を超える</td></tr><tr><td rowspan="4">評価値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75%以上 90%未満</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上 75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td><td>c</td></tr></table> 注 試験結果の測定数が少なくばらつきの判断ができない場合(3点未満)、又は3点以上あっても管理図表が作成されていない場合は、評価対象項目(評価値)だけで評価する。 <td colspan="2"> <table><tr><td>① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()</td><td></td><td></td></tr><tr><td>④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。</td><td></td><td></td></tr></table> </td>				ばらつきで判断可能		ばらつきで判断不可能			50%以下	80%以下	80%を超える	評価値	90%以上	a	a'	b	b	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'	60%以上 75%未満	b	b'	c	c	60%未満	b'	c	c	c	<table><tr><td>① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()</td><td></td><td></td></tr><tr><td>④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。</td><td></td><td></td></tr></table>		① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。			② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。			③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()			④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。		
		ばらつきで判断可能		ばらつきで判断不可能																																																	
		50%以下	80%以下		80%を超える																																																
評価値	90%以上	a	a'	b	b																																																
	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'																																																
	60%以上 75%未満	b	b'	c	c																																																
	60%未満	b'	c	c	c																																																
① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。																																																					
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。																																																					
③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()																																																					
④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。																																																					
		※ 工種を特定することが困難な工事の場合、該当する工種を複数（最大2工種）選択し、選択した工種全体で評価する。																																																			

工 事 成 績 採 点 表

(検査員)

考 査 項 目	工 種	a	b	c	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及び出来ばえ Ⅲ. 出来ばえ	コンクリート構造物工事 砂防・治山構造物工事 海岸工事 トンネル工事	●評価対象項目 ☐ コンクリート構造物の表面状態が良い。 ☐ コンクリート構造物の通りが良い。 ☐ 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 ☐ クラックが無い。 ☐ 漏水が無い。 ☐ 全体的な美観が良い。 ☐ その他 ()		●判断基準 該当5項目以上・・・a 該当4項目・・・b 該当3項目・・・c 該当2項目以下・・・d	
	土工事 (盛土・築堤工事等)	●評価対象項目 ☐ 仕上げが良い。 ☐ 通りが良い。 ☐ 天端及び端部の仕上げが良い。 ☐ 構造物へのすりつけなどが良い。 ☐ 全体的な美観が良い。 ☐ その他 ()		●判断基準 該当4項目以上・・・a 該当3項目・・・b 該当2項目・・・c 該当1項目以下・・・d	
	切土工事	●評価対象項目 ☐ 規定された勾配が確保されている。 ☐ 切土法面の施工にあたって、法面の浮き石が除去されているなど、適切に施工されている。 ☐ 法面勾配の変化部について、干渉部を設けるなど適切に施工されている。 ☐ 施工面には滞水対策等の処理が適切に行われている。 ☐ 関係構造物等との取り合いが設計図書を満足するよう施工されている。 ☐ 全体的な美観が良い。 ☐ その他 ()		●判断基準 該当5項目以上・・・a 該当4項目・・・b 該当3項目・・・c 該当2項目以下・・・d	
	護岸・根固・水制工事	●評価対象項目 ☐ 通りが良い。 ☐ 材料のかみ合わせがよく、クラックが無い。 ☐ 天端及び端部の仕上げが良い。 ☐ 既設構造物とのすりつけが良い。 ☐ 全体的な美観が良い。 ☐ その他 ()		●判断基準 該当4項目以上・・・a 該当3項目・・・b 該当2項目・・・c 該当1項目以下・・・d	
	鋼橋・水門・樋門工事	●評価対象項目 ☐ 表面に補修箇所が無い。 ☐ 部材表面に傷及び錆が無い。 ☐ 溶接に均一性がある。 ☐ 塗装に均一性がある。 ☐ 全体的な美観が良い。 ☐ その他 ()		●判断基準 該当4項目以上・・・a 該当3項目・・・b 該当2項目・・・c 該当1項目以下・・・d	
	舗装工事	●評価対象項目 ☐ 舗装の平坦性が良い。 ☐ 構造物の通りが良い。 ☐ 端部処理が良い。 ☐ 既設舗装や構造物へのすりつけ等が良い。 ☐ 雨水処理が良い。 ☐ 全体的な美観が良い。 ☐ その他 ()		●判断基準 該当5項目以上・・・a 該当4項目・・・b 該当3項目・・・c 該当2項目以下・・・d	
	法面工事	●評価対象項目 ☐ 通りが良い。 ☐ 植生、吹付等の状態が均一である。 ☐ 端部処理が良い。 ☐ 全体的な美観が良い。 ☐ その他 ()		●判断基準 該当3目以上・・・a 該当2項目・・・b 該当1項目・・・c 該当項目なし・・・d	

工 事 成 績 採 点 表

(検査員)

考 査 項 目	工 種	a	b	c	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及び出来ばえ Ⅲ. 出来ばえ	基礎工事 (地盤改良等を含む)	●評価対象項目 ☐ 土工関係の仕上がりが良い。 ☐ 通りが良い。 ☐ 端部及び天端の仕上がりが良い。 ☐ 施工管理記録などから不可視部分の出来ばえの良さが伺える。 ☐ その他 ()		●判断基準 該当3項目以上・・・・・・a 該当2項目・・・・・・b 該当1項目・・・・・・c 該当項目なし・・・・・・d	
	コンクリート橋上部工事	●評価対象項目 ☐ コンクリート構造物の表面状態が良い。 ☐ コンクリート構造物の通りが良い。 ☐ 天端及び端部の仕上がりが良い。 ☐ 支承部の仕上がりが良い。 ☐ クラックが無い。 ☐ 全体的な美観が良い。 ☐ その他 ()		●判断基準 該当5項目以上・・・・・・a 該当4項目・・・・・・b 該当3項目・・・・・・c 該当2項目以下・・・・・・d	
	塗装工事 (工場塗装を除く)	●評価対象項目 ☐ 塗装の均一性が良い。 ☐ 細部まできめ細かな施工がされている。 ☐ 補修箇所が無い。 ☐ ケレンの施工状況が良好である。 ☐ 全体的な美観が良い。 ☐ その他 ()		●判断基準 該当4項目以上・・・・・・a 該当3項目・・・・・・b 該当2項目・・・・・・c 該当1項目以下・・・・・・d	
	植栽工事	●評価対象項目 ☐ 樹木の活着状況が良い。 ☐ 支柱の取り付けがきめ細かく施工されている。 ☐ 支柱の取り付けが堅固である。 ☐ 全体的な美観が良い。 ☐ その他 ()		●判断基準 該当3項目以上・・・・・・a 該当2項目・・・・・・b 該当1項目・・・・・・c 該当項目なし・・・・・・d	
	防護柵（網）工事	●評価対象項目 ☐ 通りが良い。 ☐ 端部処理が良い。 ☐ 部材表面に傷及び錆が無い。 ☐ 既設構造物等とのすりつけが良い。 ☐ きめ細やかに施工されている。 ☐ 全体的な美観が良い。 ☐ その他 ()		●判断基準 該当5項目以上・・・・・・a 該当4項目・・・・・・b 該当3項目・・・・・・c 該当2項目以下・・・・・・d	
	標識工事	●評価対象項目 ☐ 設置位置に配慮がある。 ☐ 標識板の向き並びに角度及びその支柱の通りが良い。 ☐ 標識板の支柱に変色が無い。 ☐ 支柱基礎が入念に埋め戻されている。 ☐ 全体的な美観が良い。 ☐ その他 ()		●判断基準 該当4項目以上・・・・・・a 該当3項目・・・・・・b 該当2項目・・・・・・c 該当1項目以下・・・・・・d	
	区画線工事	●評価対象項目 ☐ 塗料の塗布が均一である。 ☐ 視認性が良い。 ☐ 接着状態が良い。 ☐ 施工前の清掃が入念に実施されている。 ☐ 全体的な美観が良い。 ☐ その他 ()		●判断基準 該当4項目以上・・・・・・a 該当3項目・・・・・・b 該当2項目・・・・・・c 該当1項目以下・・・・・・d	

考 査 項 目	工 種	a	b	c	d													
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている													
3. 出来形及び出来ばえ Ⅲ. 出来ばえ	下水道工事 (処理場・ポンプ場)	●評価対象項目 【共通】 ☐ 全体的な美観が良い。 【土工】 ☐ 切土、埋戻、盛土の仕上がり状況が良い。また沈下等が無い。 【躯体】 ☐ コンクリート構造物の通りが良い。 ☐ コンクリート構造物の肌が良い。 ☐ 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 ☐ スラブ上に水溜まりが生じない配慮がある。 ☐ クラックがない。 ☐ 漏水がない。 【防食】 ☐ 防食塗装の端部、突起部等の処置が良い。 【雑工】 ☐ 開口部の蓋の開閉作業をスムーズに行える。 【その他】 ☐ その他（		●判断基準 該当項目が80%以上・・・・・・・・・・ a 該当項目が60%～80%未満・・・・・・・・ b 該当項目が40%～60%未満・・・・・・・・ c 該当項目が40%未満・・・・・・・・・・ d <table><tr><td>① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()</td><td></td><td></td></tr><tr><td>④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。</td><td></td><td></td></tr></table>			① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。			② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。			③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()			④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。		
① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。																		
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。																		
③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()																		
④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。																		
	下水道工事 (管渠工)	●評価対象項目 【共通】 ☐ 全体的な美観が良い。 ☐ マンホール天端と路面とのすりつけが良い。 ☐ マンホールのインバートの仕上げが良い。 ☐ 漏水がない。 ☐ 管口の処理が良い。 ☐ 管渠の通りが良い。 【開削、推進工】 ☐ 管路の割れ、欠けがない。 ☐ 継ぎ手面にパッキンの設置が確実になされている。 ☐ 管路継ぎ手部ボルトの締め付け状況がよい。 【シールド工】 ☐ RCセグメントの割れ、欠けがない。 ☐ 継ぎ手面の防水が確実になされている。 ☐ セグメント間の目違い、段差が少ない。 ☐ ボルトの締め付け状況が良い。 【その他】 ☐ その他（		●判断基準 該当項目が80%以上・・・・・・・・・・ a 該当項目が60%～80%未満・・・・・・・・ b 該当項目が40%～60%未満・・・・・・・・ c 該当項目が40%未満・・・・・・・・・・ d <table><tr><td>① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()</td><td></td><td></td></tr><tr><td>④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。</td><td></td><td></td></tr></table>			① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。			② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。			③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()			④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。		
① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。																		
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。																		
③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数()																		
④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。																		
	ほ場整備工事	●評価対象項目 ☐ 均平度が良い。 ☐ 土工の仕上げが良い。 ☐ 土工の通りが良い。 ☐ 土工の構造物等へのすりつけが良い。 ☐ コンクリート構造物の通りが良い。 ☐ 全体的な美観が良い。 ☐ その他（		●判断基準 該当5項目以上・・・・・・・・ a 該当4項目・・・・・・・・・・ b 該当3項目・・・・・・・・・・ c 該当2項目以下・・・・・・・・ d														

工 事 成 績 採 点 表

(検査員)

考 査 項 目	工 種	a	b	c	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及び出来ばえ Ⅲ. 出来ばえ	鋼製構造物工事 (鋼製えん堤含む)	●評価対象項目 ☐ 地山との取り合いが良い。 ☐ 天端、端部の仕上げが良い。 ☐ 施工管理記録から不可視部分の出来ばえの良さが伺える。 ☐ 部材表面に傷、錆がない。 ☐ きめ細かな施工がなされている。 ☐ 全体的な美観が良い。 ☐ その他 ()		●判断基準 該当 5 項目以上 a 該当 4 項目 b 該当 3 項目 c 該当 2 項目以下 d	
	地すべり防止工事	●評価対象項目 ☐ 施設の通りが良い。 ☐ 施工管理記録などから不可視部分の出来ばえが良い。 ☐ 地山との取り合いがよい。 ☐ きめ細やか施工がなされている。 ☐ 全体的な美観が良好である。 ☐ その他 ()		●判断基準 該当 4 項目以上 a 該当 3 項目 b 該当 2 項目 c 該当 1 項目以下 d	
	落石防止網工事 落石防止柵工事	●評価対象項目 ☐ 通りが良い。 ☐ 端部処理が良い。 ☐ 部材表面に傷、錆がない。 ☐ 既設構造物等とのすりつけが良い ☐ きめ細かな施工がなされている。 ☐ 全体的な美観が良い。 ☐ その他 ()		●判断基準 該当 5 項目以上 a 該当 4 項目 b 該当 3 項目 c 該当 2 項目以下 d	
	水管橋工事	●評価対象項目 ☐ 傷、錆、補修痕跡がない。 ☐ 溶接、塗装、組立の均一性が良い。 ☐ 管の通りが良い。 ☐ 支承部や下部工との取り合い部の仕上げが良い。 ☐ 全体的な美観が良い。 ☐ その他 ()		●判断基準 該当 4 項目以上 a 該当 3 項目 b 該当 2 項目 c 該当 1 項目以下 d	
	漁礁工事 (鋼製漁礁)	●評価対象項目 ☐ 表面に補修箇所がない。 ☐ 表面に傷がない。 ☐ 溶接に均一性がある。 ☐ 施工管理資料等からバランスよく沈設されていることが確認できる。 ☐ 予め測量機器を利用して位置測定し、定められた場所に沈設されていることが確認できる。 ☐ 施工管理資料等から沈設状況の出来栄えの良さが伺える。 ☐ 全体的な美観が良い。 ☐ その他 ()		●判断基準 該当 6 項目以上 a 該当 5 項目 b 該当 4 項目 c 該当 3 項目以下 d	
	増殖場工事 (転石礁)	●評価対象項目 ☐ 石材の大きさにばらつきがない。 ☐ 石材にクラックがない。 ☐ 施工管理資料等からバランスよく投入されていることが確認できる。 ☐ 予め測量機器を利用して位置測定し、定められた場所に投入されたことが確認できる。 ☐ 施工管理資料等から投入状況の出来栄えの良さが伺える。 ☐ 全体的な美観が良い。 ☐ その他 ()		●判断基準 該当 5 項目以上 a 該当 4 項目 b 該当 3 項目 c 該当 2 項目以下 d	

工 事 成 績 採 点 表

(検査員)

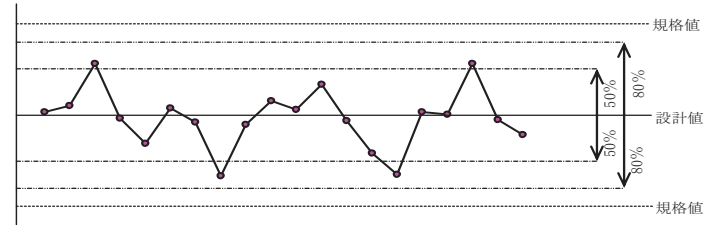
考 査 項 目	工 種	a	b	c	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及び出来ばえ Ⅲ. 出来ばえ	漁礁・増殖場工事 (コンクリートブロック礁)	●評価対象項目 ☐ コンクリート構造物の表面状態が良い。 ☐ 端部仕上げが良い。 ☐ 有害なクラックがない。 ☐ 施工管理資料等からバランスよく沈設されていることが確認できる。 ☐ 予め測量機器を利用して位置測定し、定められた場所に沈設されていることが確認できる。 ☐ 施工管理資料等から沈設状況の出来栄えの良さが伺える。 ☐ 全体的な美観が良い ☐ その他 ()		●判断基準 該当6項目以上・・・a 該当5項目・・・b 該当4項目・・・c 該当3項目以下・・・d	
	浚渫工事 河床掘削工事	●評価対象項目 ☐ 底面、河床の全体的な仕上げが良い。 ☐ 施工管理記録等から不可視部分の出来栄えの良さが伺える。 ☐ 端部処理が良い。 ☐ 地山との取り合いが良い。 ☐ 残土処分地の仕上げが良い。 ☐ 全体的な美観が良い。 ☐ その他 ()		●判断基準 該当5項目以上・・・a 該当4項目・・・b 該当3項目・・・c 該当2項目以下・・・d	
	構造物解体・撤去工事	●評価対象項目 ☐ 解体・撤去後残存物がなく、解体・撤去後の状態が良い。 ☐ 周辺道路や残存工作物の破損修復や清掃が行き届いている。 ☐ 解体・撤去後の整地や現地保全等の仕上がりが良好である。 ☐ 全体的な美観が良い。 ☐ その他 ()		●判断基準 該当3項目以上・・・a 該当2項目・・・b 該当1項目・・・c 該当項目なし・・・d	
	上記以外の工事 又は 合併工事	●評価対象項目 ☐ 理由： ☐ 理由： ☐ 理由： ☐ 理由： ☐ 理由： ※ 工種を特定することが困難な工事の場合、該当する工種を複数（最大2工種）選択し、選択した工種全体で評価する。		●判断基準 該当項目が80%以上・・・a 該当項目が60%～80%未満・・・b 該当項目が40%～60%未満・・・c 該当項目が40%未満・・・d	

出来形及び品質のばらつきの考え方

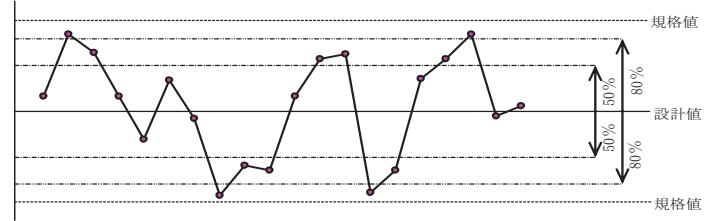
[管理図の場合]

(上・下限値がある場合)

①ばらつきが50%以下と判断できる例

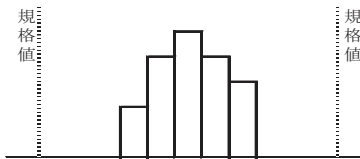


②ばらつきが80%以下と判断できる例

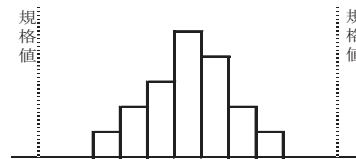


[度数表またはヒストグラムの場合]

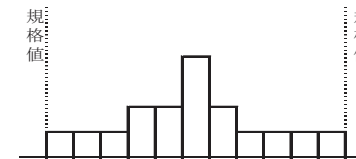
ばらつきが小さい



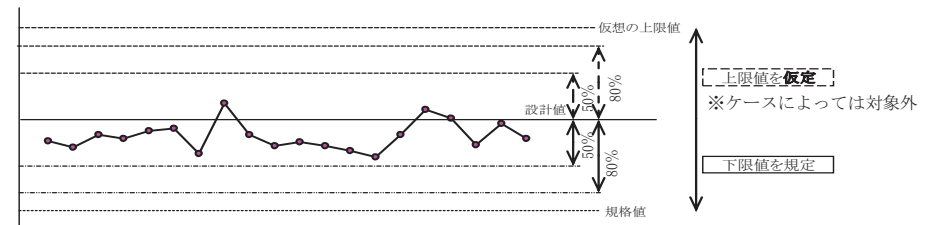
ばらついている



ばらつきが大きい



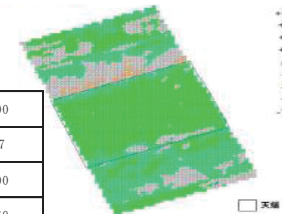
(下限値のみの場合)



③ICT活用工事の例

出来形合否判定総括表の分布図や計測点の個数によりばらつきを判断
ばらつきが50%以下と判断できる例

天端の ばらつき	規格値の±80%以内 のデータ数	1000
	規格値の±50%以内 のデータ数	997
法面の ばらつき	規格値の±80%以内 のデータ数	1700
	規格値の±50%以内 のデータ数	1360



【注意事項】

- (1) 規格値の50%（80%）値以内に測定数の80%以上収まっていれば、「ばらつき50%（80%）以下」と判断する。
- (2) 測定数が少なく（測定数が3点未満）ばらつきの判断ができない場合の評価は、各工事成績採点表に記載のとおり。
- (3) 測定数が3点以上であっても、管理図表が作成されていない場合は、ばらつき判断ができないものとして評価する。
- (4) コンクリート強度のばらつきについては、評価の対象としない。

工 事 成 績 採 点 表 (営 繕 工 事)

目 次

評 定 者	考 査 項 目	細 別	工 種	様 式	頁
監 督 員	1. 施工体制	I. 施工体制一般	共 通	営1-1	2
		II. 配置技術者 (現場代理人等)	共 通	営1-2	3
	2. 施工状況	I. 施工管理	共 通	営1-3	4
		II. 工程管理	共 通	営1-4	5
		III. 安全対策	共 通	営1-5	6
		IV. 対外関係	共 通	営1-6	7
	3. 出来形及び 出来ばえ	I. 出来形	共 通	営1-7	8
		II. 品質	建築工事	営1-8	9
			電気設備工事、 受変電設備工事 通信設備工事	営1-9	10
			冷暖房衛生設備工事、 機械設備工事	営1-10	11
	5. 創意工夫	I. 創意工夫	共 通	営1-11～12	12～13
課 長	2. 施工状況	II. 工程管理	共 通	営2-1	14
		III. 安全対策	共 通	営2-2	14
	4. 工事特性	I. 施工条件等へ の対応	共 通	営2-2～4	15～17
	6. 社会性等	I. 地域への貢献等	共 通	営2-1	14
	7. 法令遵守等		共 通	営2-5	18
検 査 員	2. 施工状況	I. 施工管理	共 通	営3-1	19
	3. 出来形及び 出来ばえ	I. 出来形	共 通	営3-2	20
		II. 品質	建築工事	営3-3	21
			電気設備工事、 受変電設備工事 通信設備工事	営3-4	22
			冷暖房衛生設備工事、 機械設備工事	営3-5	23
		III. 出来ばえ	建築工事	営3-6	24
			電気設備工事、 受変電設備工事 通信設備工事	営3-7	25
			冷暖房衛生設備工事、 機械設備工事	営3-8	26

工事成績採点表(営繕工事)

監督員

考査項目	細別	対象	評価対象項目
1. 施工体制	I. 施工体制一般		☐ ①作業の分担の範囲が、下請業者を含め、書面に明確に記載されている。 ☐ ②品質管理体制が、書面に適切に記載されている。 ☐ ③安全管理体制が、書面に適切に記載されている。 ☐ ④現場の施工体制(品質管理、安全管理を含む)が、書面と一致している。 ☐ ⑤工事規模に応じた人員、機械配置がなされ施工している。 ☐ ⑥建設業退職金共済制度(建退共)の趣旨を下請業者等に説明するとともに、証紙の購入が適切に行われ、配布が受け払い簿等により適切に把握されている。 ☐ ⑦元請業者が、下請業者の施工結果を十分に検査している。 ☐ ⑧現場における施工体制に対し、本支店等による十分な支援体制を整え実施している。 ☐ ⑨「施工プロセス」チェックリストのうち、施工体制一般について指示事項が無い。 ☐ ⑩その他 理由:
			(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 施工体制一般に関して、監督員から文書による改善指示を行った。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 施工体制一般に関して、監督員からの文書による改善指示に従わなかった。
評価			
a: 施工体制が優れている。 b: 施工体制が良好である。 c: 施工体制が適切である。 d: 施工体制がやや不適切である。 e: 施工体制が不適切である。			
該当項目が90%以上 a	① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。		
該当項目が80%以上90%未満..... b	② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。		
該当項目が60%以上80%未満 ... c	③ 評価値(%) = (評価数 / 対象評価項目数) × 100		
該当項目が60%未満 d	④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全て該当してもc評価とする。		
	評価＝	評価値 %	

工事成績採点表(営繕工事)

監督員

考査項目	細別	対象	評価対象項目
1. 施工体制	Ⅱ. 配置技術者 (現場代理人等)		☐ ①現場代理人として、工事全体の把握ができています。 ☐ ②現場代理人として、監督員への報告、協議等を書面で行っている。 ☐ ③契約書、設計図書等を理解し、現場に反映して工事を行っている。 ☐ ④工事請負契約書第18条(条件変更等)第1項(以下、「契約書第18条」という。)に基づく設計図書の照査を行っている。 ☐ ⑤工事の関係書類及び資料が適切に整理されている。 ☐ ⑥作業環境、気象、地質条件等の把握及び対応に努めている。 ☐ ⑦工事に必要な専門技術者を選任し、配置している。 ☐ ⑧作業に必要な作業主任者を選任し、配置している。 ☐ ⑨主任(監理)技術者として技術的判断に優れ、良好な施工に努めている。 ☐ ⑩施工体制、施工状況を把握し、下請け、部下等をよく指導している。 ☐ ⑪施工等に伴う提案又は工夫をもって工事を進めている。 ☐ ⑫「施工プロセス」チェックリストのうち、配置技術者について指示事項が無い。 ☐ ⑬その他 理由:
			(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 配置技術者に関して、監督員から文書による改善指示を行った。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 配置技術者に関して、監督員からの文書による改善指示に従わなかった。
評価			
a:配置技術者として優れている。 b:配置技術者として良好である。 c:配置技術者として適切である。d:配置技術者としてやや不適切である。 e:配置技術者として不適切である。			
該当項目が90%以上	 a	①	「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
該当項目が80%以上90%未満	 b	②	削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
該当項目が60%以上80%未満	 c	③	評価値(%) = (評価数 / 対象評価項目数) × 100
該当項目が60%未満	 d	④	評価対象項目数が2項目以下の場合は、全て該当してもc評価とする。
	評価＝	評価値	%

※1. 建築一式工事を施工する場合において、一式工事の内容である他の建設工事(専門工事)を自ら施工する時は、当該専門工事に関し資格を有する者を置くものとする。なお、主任技術者が当該専門工事の資格を有していれば、専門技術者を兼ねることができる。

※2. 作業主任者を専任すべき作業は、労働安全衛生法施行令第6条による。

工事成績採点表(営繕工事)

監督員

考査項目	細別	対象	評価対象項目
2. 施工状況	I. 施工管理		☐ ①契約書第18条に基づく設計図書の照査結果について、協議を行っている。 ☐ ②監督員から指摘されることなく、適切な時期に適切な施工計画書を提出している。 ☐ ③施工計画書が、設計図書及び現場条件を反映した内容となっている。 ☐ ④施工計画書に出来形、品質確保のための記載がある。 ☐ ⑤施工計画書に基づき、日常の出来形、品質の管理を適切に行っている。 ☐ ⑥施工図作成にあたり、関連工事と遅滞なく、調整が十分に図られている。 ☐ ⑦工事打合簿等の工事記録の整備が適切に行われている。 ☐ ⑧施工計画書の記載内容と現場の施工方法が一致している。 ☐ ⑨工程ごとの検査、確認の報告が適切に行われている。 ☐ ⑩現場内での整理整頓が日常的に行われている。 ☐ ⑪使用する建築材料(以下「材料」という。)、設備機材(以下「機材」という。)の調達の計画及び搬入後の管理が適切である。 ☐ ⑫社内検査体制が構築され、関係書類、出来形、品質等の社内検査を工事全般にわたり実施し、品質証明に係る体制が有効に機能している。 ☐ ⑬独自のチェックリスト等の管理基準により、日常的に管理されている。 ☐ ⑭低騒音、低振動及び排出ガス対策型の建設機械、車両を使用している。 ☐ ⑮建設廃棄物の処分及び建設副産物のリサイクルへの取り組みが適切に行われている。 ☐ ⑯「施工プロセス」チェックリストのうち、施工管理について指示事項が無い。 ☐ ⑰その他 理由:
			(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 施工管理に関して、監督員から文書による改善指示を行った。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 施工管理に関して、監督員からの文書による改善指示に従わなかった。
評価			
a: 施工管理が優れている。 b: 施工管理が良好である。 c: 施工管理が適切である。 d: 施工管理がやや不適切である。 e: 施工管理が不適切である。			
該当項目が90%以上 a		① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。	
該当項目が80%以上90%未満..... b		② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。	
該当項目が60%以上80%未満 ... c		③ 評価値(%) = (評価数 / 対象評価項目数) × 100	
該当項目が60%未満 d		④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全て該当してもc評価とする。	
	評価＝	評価値 %	

工事成績採点表(営繕工事)

監督員

考查項目	細別	対象	評価対象項目
2. 施工状況	Ⅱ. 工程管理	☐ ①実施工程表が工事着手前に提出され、関連工事との調整も適切に行っている。 ☐ ②現場での工程管理を、詳細工程表やパソコン等を用いて日常的に把握している。 ☐ ③工程のフォローアップを実施し、受注者の責による関連工事や施設管理者等に影響を及ぼす工程の遅れがない。 ☐ ④現場または施工条件の変更への対応が、積極的で処理が早い。 ☐ ⑤工程に関する各種制約等があるにも関わらず、工期内にスムーズに作業を行っている。 ☐ ⑥受注者の責による夜間や休日の作業がない。 ☐ ⑦休日、代休の確保を行っている。 ☐ ⑧近隣住民(施設管理者等を含む)との調整を積極的に行い、円滑な工事進捗を行っている。 ☐ ⑨「施工プロセス」チェックリストのうち、工程管理について指示事項が無い。 ☐ ⑩その他 理由:	
		(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 工程管理に関して、監督員から文書による改善指示を行った。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 工程管理に関して、監督員からの文書による改善指示に従わなかった。	
評価			
a: 工程管理が優れている。 b: 工程管理が良好である。 c: 工程管理が適切である。 d: 工程管理がやや不適切である。 e: 工程管理が不適切である。			
該当項目が90%以上 a	① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。		
該当項目が80%以上90%未満..... b	② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。		
該当項目が60%以上80%未満 ... c	③ 評価値(%) = (評価数 / 対象評価項目数) × 100		
該当項目が60%未満 d	④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全て該当してもc評価とする。		
	評価＝	評価値 %	

工事成績採点表(営繕工事)

監督員

考査項目	細別	対象	評価対象項目
2. 施工状況	Ⅲ. 安全対策		☐ ①災害防止(工事安全)協議会等を設置し、1回／月以上の活動記録が整備されている。 ☐ ②店社パトロールを1回／月以上実施し、記録が整備されている。 ☐ ③各種安全パトロールで指摘を受けた事項について、速やかに改善を図り、かつ関係者に是正指示している。 ☐ ④安全教育、安全訓練等を適時適切に実施し、記録が整備されている。 ☐ ⑤安全巡視、TBM、KY等を実施し、記録を整備している。 ☐ ⑥新規入場者教育を実施し、実施内容に現場の特性が反映され、記録が整備されている。 ☐ ⑦現場の各工程において、適切に安全管理の措置をしている。 ☐ ⑧重機操作に際して、誘導員配置や重機と人の行動範囲の分離措置がなされている。 ☐ ⑨山留め等について、設置後の点検及び管理がチェックリスト等を用いて実施されている。 ☐ ⑩仮設工事において、設置完了時や使用中の点検及び管理がチェックリスト等を用いて実施されている。 ☐ ⑪使用機械、工具等の点検整備等がなされ、十分に管理されている。 ☐ ⑫工事現場における保安設備等の設置、管理が適切であり、よく整備されている。 ☐ ⑬過積載防止に十分に取り組んでいる。 ☐ ⑭「施工プロセス」チェックリストのうち、安全対策について指示事項が無い。 ☐ ⑮その他 理由:
			(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 安全対策に関して監督員から文書による改善指示を行った。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 安全対策に関して、監督員からの文書による改善指示に従わなかった。
評価			
a: 安全対策が優れている。 b: 安全対策が良好である。 c: 安全対策が適切である。 d: 安全対策がやや不適切である。 e: 安全対策が不適切である。			
該当項目が90%以上 a	① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。		
該当項目が80%以上90%未満..... b	② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。		
該当項目が60%以上80%未満 ... c	③ 評価値(%) = (評価数 / 対象評価項目数) × 100		
該当項目が60%未満 d	④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全て該当してもc評価とする。		
	評価＝	評価値 %	

工事成績採点表(営繕工事)

監督員

考査項目	細別	対象	評価対象項目
2. 施工状況	IV. 対外関係	☐ ①工事施工にあたり、関係官公署等の関係機関と協議及び調整を行い、トラブルの発生がない。 ☐ ②工事施工にあたり、近隣住民(施設管理者等を含む)と適切に協議及び調整を行っている。 ☐ ③引渡し時に施設管理者に対し、保守管理について適切な説明を行っている。 ☐ ④工事の目的及び内容を、工事看板などにより地域住民や通行者等に分りやすく周知している。 ☐ ⑤近隣住民(施設管理者等を含む)対策を実施し苦情がない。もしくは、苦情に対して適切な対応を行い、以後のトラブルがない。 ☐ ⑥現場のイメージアップに取り組んでいる。 ☐ ⑦「施工プロセス」チェックリストのうち、対外関係について指示事項が無い。 ☐ ⑧その他 理由:	
		(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 対外関係に関して監督員から文書による改善指示を行った。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 対外関係に関して、監督員からの文書による改善指示に従わなかった。	
評価			
a: 対外関係が優れている。 b: 対外関係が良好である。 c: 対外関係が適切である。 d: 対外関係がやや不適切である。 e: 対外関係が不適切である。			
該当項目が90%以上 a	① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。		
該当項目が80%以上90%未満..... b	② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。		
該当項目が60%以上80%未満 ... c	③ 評価値(%) = (評価数 / 対象評価項目数) × 100		
該当項目が60%未満 d	④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全て該当してもc評価とする。		
	評価＝	評価値 %	

工事成績採点表(営繕工事)

監督員

考査項目	細別	対象	評価対象項目
3. 出来形及び出来ばえ	I. 出来形		☐ ①承諾図等が、設計図書を満足している。 ☐ ②施工図等が、設計図書を満足している。 ☐ ③現場における出来形が設計図書を満足し、適切な施工である。 ☐ ④施工計画書等で定めた出来形の管理基準に基づき管理している。 ☐ ⑤出来形の管理記録が適切にまとめられており、結果が良好である。 ☐ ⑥出来形の管理方法を工夫している。 ☐ ⑦解体又は撤去工事の場合、撤去対象物の範囲等が確認でき、処分が適切である。 ☐ ⑧不可視部分となる出来形が、工事写真や施工記録等により確認できる。 ☐ ⑨その他 理由：
			(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 出来形に関して、監督員から文書による改善指示を行った。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 工事請負契約書第17条に基づき監督員が改造請求を行った。
評価			
a: 出来形が優れている。 b: 出来形が良好である。 c: 出来形が適切である。 d: 出来形がやや不適切である。 e: 出来形が不適切である。			
該当項目が90%以上 a	① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。		
該当項目が80%以上90%未満..... b	② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。		
該当項目が60%以上80%未満 ... c	③ 評価値(%) = (評価数 / 対象評価項目数) × 100		
該当項目が60%未満 d	④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全て該当してもc評価とする。		
	評価＝	評価値 %	

※1. 出来形の対象は「材料、機材」と「施工の完了したもの」であり、工事目的物の形状、寸法、位置、数量並びに管理記録と設計図書を対比することにより評価を行う。

工事成績採点表(営繕工事)

監督員

考查項目	細別	対象	評価対象項目
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質 建築工事		☐ ①材料及び製品の品質が、製作図等により確認でき、設計図書を満足している。 ☐ ②施工の各段階における完了時の品質が、適切である。 ☐ ③品質管理記録の内容が適切である。 ☐ ④躯体工事における施工の品質が、施工記録等により確認でき、良好である。 ☐ ⑤内外仕上げ工事における施工の品質が施工記録等により確認でき、良好である。 ☐ ⑥不可視部分における品質管理のための工事写真、施工記録等が整備されている。 ☐ ⑦性能、機能を満足している。 ☐ ⑧その他 理由：
			(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 品質の管理に関して、監督員から文書による改善指示を行った。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 工事請負契約書第17条に基づき監督員が改造請求を行った。
評価			
a: 品質が優れている。 b: 品質が良好である。 c: 品質が適切である。 d: 品質がやや不適切である。 e: 品質が不適切である。			
該当項目が90%以上 a	① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。		
該当項目が80%以上90%未満..... b	② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。		
該当項目が60%以上80%未満 ... c	③ 評価値(%) = (評価数 / 対象評価項目数) × 100		
該当項目が60%未満 d	④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全て該当してもc評価とする。		
	評価＝	評価値	%

※1. 目的物の品質の水準を評価すること。

※2. 品質の対象は、「材料、機材」と「施工が完了したもの(システムを含む)」があり、工事目的物の品質及び品質管理に関する各種の記録と設計図書を対比することにより技術的な評価を行う。

工事成績採点表(営繕工事)

監督員

考査項目	細別	対象	評価対象項目
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質 電気設備工事 受変電設備工事 通信設備工事		☐ ①機材の品質が承諾図等により確認でき、設計図書を満足している。 ☐ ②施工の各段階における完了時の試験及び記録の方法が適切である。 ☐ ③品質管理記録の内容が適切である。 ☐ ④システムの性能及び機能に関する試運転等の確認方法が適切であり、記録の内容が設計図書を満足している。 ☐ ⑤機材及び施工の品質が良好である。 ☐ ⑥不可視部分となる品質管理のための工事写真、施工記録等が整備されている。 ☐ ⑦製造者による試験が的確に行われ、設計図書等に適合する証明書等を整備している。 ☐ ⑧その他 理由:
			(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 品質の管理に関して、監督員から文書による改善指示を行った。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 工事請負契約書第17条に基づき監督員が改造請求を行った。
評価			
a: 品質が優れている。 b: 品質が良好である。 c: 品質が適切である。 d: 品質がやや不適切である。 e: 品質が不適切である。			
該当項目が90%以上 a	① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。		
該当項目が80%以上90%未満..... b	② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。		
該当項目が60%以上80%未満 ... c	③ 評価値(%) = (評価数 / 対象評価項目数) × 100		
該当項目が60%未満 d	④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全て該当してもc評価とする。		
	評価＝	評価値	%

※1. 目的物の品質の水準を評価すること。

※2. 品質の対象は、「材料、機材」と「施工が完了したもの(システムを含む)」があり、工事目的物の品質及び品質管理に関する各種の記録と設計図書を対比することにより技術的な評価を行う。

工事成績採点表(営繕工事)

監督員

考査項目	細別	対象	評価対象項目
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質 冷暖房衛生設備工事 機械設備工事		☐ ①機材の品質が承諾図等により確認でき、設計図書を満足している。 ☐ ②施工の各段階における完了時の試験及び記録の方法が適切である。 ☐ ③ 品質管理記録の内容が適切である。 ☐ ④システムの性能及び機能に関する試運転等、確認方法が適切であり、記録の内容が設計図書を満足している。 ☐ ⑤機材及び施工の品質が良好である。 ☐ ⑥不可視部分における品質確認のための工事写真、施工記録等が整備されている。 ☐ ⑦製造者による試験が的確に行われ、設計図書等に適合する証明書等を整備している。 ☐ ⑧その他 理由:
			(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 品質の管理に関して、監督員から文書による改善指示を行った。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 工事請負契約書第17条に基づき監督員が改造請求を行った。
評価			
a: 品質が優れている。 b: 品質が良好である。 c: 品質が適切である。 d: 品質がやや不適切である。 e: 品質が不適切である。			
該当項目が90%以上 a		①	「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。
該当項目が80%以上90%未満 b		②	削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。
該当項目が60%以上80%未満 ... c		③	評価値(%) = (評価数 / 対象評価項目数) × 100
該当項目が60%未満 d		④	評価対象項目数が2項目以下の場合は、全て該当してもc評価とする。
	評価＝	評価値	%

※1. 機械設備工事とは、エレベーター、エスカレーター設備工事等の建設業法における機械器具設置工事をいう。

※2. 目的物の品質の水準を評価すること。

※3. 品質の対象は、「材料、機材」と「施工が完了したもの(システムを含む)」があり、工事目的物の品質及び品質管理に関する各種の記録と設計図書を対比することにより技術的な評価を行う。

工事成績採点表(営繕工事)

監督員

(創意1/2)

考查項目	細目	評価対象項目
5. 創意工夫	■準備・後片づけ関係	☐ 1. 測量・位置出しにおける工夫
		☐ 2. 現地調査方法の工夫
		☐ 3. その他
		理由:
	詳細評価内容:	
	■施工関係	☐ 4. 施工に伴う器具・工具・装置類の工夫
☐ 5. 工場加工製品等の活用による副産物及び廃棄物の減少またはリサイクルに対する積極的な取り組み		
☐ 6. 土工事、地業工事、鉄骨建て方、コンクリート工事等の施工関係の工夫		
☐ 7. 建築材料・機材等の運搬・搬入等を含む施工方法に工夫		
☐ 8. 電気設備工事等の配線、配管等の工夫		
☐ 9. 暖冷房衛生設備工事等の配管、ダクト等の工夫		
☐ 10. 照明・視界確保等の工夫		
☐ 11. 仮排水、仮道路、迂回路等の計画・施工の工夫		
☐ 12. 運搬車両・施工機械等の工夫		
☐ 13. 型枠、足場、山留め等の仮設関係の工夫		
☐ 14. 施工管理及び品質向上等の工夫		
☐ 15. プレハブ工法等の採用による工期短縮等の工夫		
☐ 16. 仮設施工等の工夫		
☐ 17. 既存施設・近隣等に対する騒音・振動対策等の工夫		
☐ 18. 保全への配慮による材料選定・施工方法等の工夫		
☐ 19. 作業の安全性向上のための施工方法等の工夫		
☐ 20. その他		
理由:		
詳細評価内容:		
■品質関係		☐ 21. 集計ソフト等の活用と工夫
	☐ 22. 躯体工事の品質管理の工夫	
	☐ 23. 建築材料・機材の検査・試験に関する工夫	
	☐ 24. 施工の検査・試験に関する工夫	
	☐ 25. 品質記録方法の工夫	
	☐ 26. その他	
理由:		
詳細評価内容:		

工事成績採点表(営繕工事)

監督員

(創意2/2)

考查項目	細目	評価対象項目
5. 創意工夫	■安全衛生関係	☐ 27. 安全仮設備等の工夫(落下物、墜落・転落、挟まれ、看板、立入禁止柵、手摺り、足場等)
		☐ 28. 安全衛生教育、技術向上講習会等、ミーティング、安全パトロール等に関する工夫
	■施工管理関係	☐ 29. 現場事務所、休憩所等の環境向上の工夫
		☐ 30. 酸欠対策・有毒ガス・可燃ガスの処理または粉塵防止策や作業中の換気等の工夫
■その他	☐ 31. 周辺道路等の事故防止または一般交通確保等のための工夫	
	☐ 32. 改修工事における既存施設利用者等に対する安全対策の工夫	
(最大 7点)		☐ 33. 作業時における作業環境改善等の工夫
		☐ 34. ゴミの減量化、アイドリングストップの励行等の地球環境への工夫
評点計 = 点		☐ 35. その他 理由:
		詳細評価内容:
		☐ 36. 出来形の管理等に関する工夫
		☐ 37. 施工計画書または写真記録等に関する工夫
		☐ 38. 出来形・品質に関する計測等の工夫及び集計の工夫
		☐ 39. CAD、施工管理ソフト等の活用
		☐ 40. CALSを活用した施工管理の工夫
		☐ 41. その他 理由:
		詳細評価内容:
		<新技術活用>
		☐ 42. 受注者からの提案によるNETIS登録技術の活用。※活用技術数と内容により1～2点とする。
		<その他>
		☐ 43. その他 理由:
		☐ 44. その他 理由:
		詳細評価内容:

※1. 特に評価すべき創意工夫事例を加点評価する。最大7点の加点評価とする。

※2. 該当する数と重みを勘案して評価する。1項目1点を目安とするが、内容によっては2点を与えてもよい。

※3. 上記の考查項目の他に評価に値する企業の工夫があれば、その他に具体的内容を記載して加点する。なお、課長が評価する「工事特性」「社会性等」との二重評価は行わない。

※4. 評価した内容を詳細評価内容欄に記載する。

工事成績採点表(営繕工事)

課長

考查項目	細別	評価対象項目
2. 施工状況	II. 工程管理	☐ ①現場又は施工条件の変更等による工期的な制約がある中で、契約工期(工事中止期間は除く)の5%以上かつ2週間以上の余裕をもって工事を完成させた。 ☐ ②隣接又は同一現場の他工事等との積極的な工程調整を行い、トラブルを回避した。 ☐ ③近隣住民(施設管理者等を含む)調整を積極的に行い、トラブルも少なく、工期内に工事を完成させた。 ☐ ④配置技術者(現場代理人等)の積極的な工程管理の姿勢が見られた。 ☐ ⑤工事進捗状況報告が監督員から指摘されることなく、適切な時期に適切な内容で提出されている。 ☐ ⑥その他 理由:
		a: 工程管理が優れている。 b: 工程管理が良好である。 c: 工程管理が適切である。 d: 工程管理がやや不適切である。 e: 工程管理が不適切である。 該当項目が3項目以上..... a 該当項目が2項目..... b 該当項目が1項目以下..... c
		(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 工程管理に関して監督員から文書による改善指示を行った。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 工程管理に関して、監督員からの文書による改善指示に従わなかった。 又、受注者の責により工期内に工事を完成しなかった。
		評価=
6. 社会性等	I. 地域への貢献等	☐ ①建設労働災害、公衆災害の防止への努力が顕著である。 ☐ ②安全衛生管理体制を確立し、組織的に取り組んでいる。 ☐ ③安全衛生管理活動が適切に実施されている。 ☐ ④安全管理に関する技術開発や創意工夫に取り組んでいる。 ☐ ⑤安全協議会活動に積極的に取り組んでいる。 ☐ ⑥その他 理由:
		a: 安全対策が優れている。 b: 安全対策が良好である。 c: 安全対策が適切である。 d: 安全対策がやや不適切である。 e: 安全対策が不適切である。 該当項目が4項目以上..... a 該当項目が3項目..... b 該当項目が2項目以下..... c
		(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 安全対策に関して監督員から文書による改善指示を行った。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 安全対策に関して、監督員からの文書による改善指示に従わなかった。
		評価=
6. 社会性等	I. 地域への貢献等	☐ ①周辺環境への配慮に積極的に取り組んだ。 ☐ ②現場事務所や作業現場の環境を周辺地域との景観に合わせるなど、積極的に周辺地域との調和を図った。 ☐ ③必要に応じたチラシ等の回覧、又は定期的に広報紙の配布や現場見学会等を実施して、積極的に地域とのコミュニケーションを図った。 ☐ ④地域に密着したゴミ拾い、道路清掃等のボランティア活動などを積極的に実施し、地域に貢献した。 ☐ ⑤地域が主催するイベントへ積極的に参加し、地域とのコミュニケーションを図った。 ☐ ⑥災害時などにおいて、地域への支援又は行政などによる救援活動への積極的な協力を行った。 ☐ ⑦その他 理由:
		a: 地域への貢献等が優れている。 a': 地域への貢献等がやや優れている。 b: 地域への貢献等が良好である。 b': 地域への貢献等がやや良好である。 c: 他の評価に該当しない。 該当項目が4項目以上..... a 該当項目が3項目..... a' 該当項目が2項目..... b 該当項目が1項目..... b' 該当項目が0項目..... c
		評価=

※1. 課長は、監督員の意見を参考に評価を行う。

※2. 地域への貢献等とは、工事の施工に伴って、地域社会や住民に対する配慮等の貢献について加点評価する。

工事成績採点表(営繕工事)

課長

(特性1/3)

考査項目	細目	評価対象項目
4. 工事特性 I. 施工条件等への対応	■建物規模への対応	※下記の対応事項に1つ以上レ点が付けば2点の加点とする。 ☐ 1. 延べ面積10,000㎡以上の建物 ☐ 2. 地上9階以上又は建物高さ31m以上の建物 ☐ 3. 大空間のホール等を有する建物 ☐ 4. その他(理由:) 詳細評価内容:
	評点= 点	
	■建物固有の機能の難しさへの対応	※下記の対応事項に1つ以上レ点が付けば2点の加点とする。 ☐ 5. 対象建物の耐震レベル ☐ 6. 建物機能の特殊性 ☐ 7. その他(理由:) [評価技術事例] ・建築工事で官庁施設の総合耐震計画基準においてI類及びA類に属する工事 ・電気又は暖冷房衛生設備工事で官庁施設の総合耐震計画基準において甲類に属する工事 ・研究施設、美術館等、特殊機能・設備の有る建物 詳細評価内容:
	評点= 点	
	■建物固有の施工技術の難しさへの対応	※下記の対応事項に1つ以上レ点が付けば2点の加点とする。 ☐ 8. 建築材料、設備機材、工法について、提案がある場合 ☐ 9. 設計条件として、工法、材料及び設備システム(機材を含む)の特殊性 ☐ 10. 制約条件等があり、施工難度が特に高い場合 ☐ 11. その他(理由:) [評価技術事例] ・パイロット工事又は特異な試験フィールド工事で特許工法等の技術的に検討が必要な工事 ・特殊な工法又は材料等を採用した工事 ・特殊な設備システムを採用した工事 ・免震装置を設ける工事 ・大規模な山留め工法が必要な工事 ・敷地内又は周辺部の工作物、配管・配線等の大規模な移設、切り回しを行う工事 ・仮設備等を設け、システムを停止することなく配管・配線等の大規模な盛替え等を必要とする改修工事 詳細評価内容:
	評点= 点	

工事成績採点表(営繕工事)

課長

(特性2/3)

考査項目	細目	評価対象項目
4. 工事特性 I. 施工条件等への対応	■ 厳しい自然・地盤条件への対応	※下記の対応事項に1つ以上レ点が付けば2点の加点とする。 ☐ 12. 湧水の発生、地下水の影響(地盤掘削時) ☐ 13. 軟弱地盤、支持地盤の影響 ☐ 14. 雨・雪・風・気温等の影響 ☐ 15. その他(理由:) [評価技術事例] ・地下水位が高く、ウエルポイント等の排水設備が必要な工事 ・液状化対策工法や地盤改良を伴う工事 ・冬期施工のため、大規模な雪寒冬囲いをする必要があり、冬期の養生温度の管理や施工スペースの制限を受けた工事 詳細評価内容:
	評点 = 点	
	■ 厳しい周辺環境、社会条件との対応	※下記の対応事項に1つ以上レ点が付けば2点の加点とする。 ☐ 16. 地中埋設物等の作業障害 ☐ 17. 工事の影響に配慮すべき建物等の近接物 ☐ 18. 周辺住民等に対する騒音・振動の配慮 ☐ 19. 周辺水域環境に対する水質汚濁の配慮 ☐ 20. その他(理由:) [評価技術事例] ・工事に支障をきたす地中埋設物、酸欠、有毒・可燃性ガス等の対策が必要な工事 ・工事場所周辺に近接工事があり、困難な調整を要する工事 ・場内に汚水処理装置(水替え)を必要とする工事 ・住居専用地域等で、騒音などの時間規制が条例で定められてる工事 ・有線電気通信法による届出が必要なテレビ電波障害対策工事で、困難な調整を行った工事 詳細評価内容:
	評点 = 点	

工事成績採点表(営繕工事)

課長

(特性3/3)

考査項目	細目	評価対象項目
4. 工事特性 I. 施工条件等への対応	■ 施工現場での対応	※下記の対応事項に1つにレ点が付けば4点の加点とし、最大10点とする。 【長期工事における安全確保への対応】 ☐ 21. 12ヶ月を超える工期で事故が無く完成した工事（ただし全面一時中止期間は除く） 【災害等での臨機の措置】 ☐ 22. 地震、台風などにおいて、適切に臨機の対応を行った工事 【施工状況(条件)に対応した施工・工法等】 ☐ 23. 工事の実施にあたり各種の制約があり、工程的にも特に厳しく、施工の制限を受けた工事 ☐ 24. 工程上他工事の制約を受け、機械、人員の増強を行った工事 ☐ 25. 休日・夜間作業が工程の過半を超える工事 ☐ 26. 施設を使用しながらの工事で、工程的な制約が特に厳しい工事 ☐ 27. 特に困難な調整を要する他工事(近接工区)の請負者が複数ある工事 ☐ 28. 外来者の多い施設で、作業範囲内に外来者・通行人等の動線がある工事 ☐ 29. 特殊な室などで、工種が輻輳し困難な調整を要する工事 ☐ 30. 施工ヤードが狭く、高さ制限もあり、施工及び機械の移動や旋回等に制約を受けた工事 ☐ 31. 同一敷地内における施設を使用しながらの建て替え工事で、工程の制約等が特に厳しい工事 ☐ 32. その他(理由:)
(最大 20点)		詳細評価内容:
評点計= 点	評点= 点	

※1. 工事特性は、最大20点の加点評価とする。

※2. 監督員が評価する「創意工夫」との二重評価は行わない。

※3. 評価にあたっては、監督員の意見も参考に評価する。

※4. レ点を付した評価対象項目について、評価内容を詳細評価内容欄に記載する。

工事成績採点表(営繕工事)

課長

考査項目	法令遵守等の該当項目一覧表	
7. 法令遵守等	点数	措 置 内 容
	○ - 20 点	1.指名停止3ヶ月以上
	○ - 15 点	2.指名停止2ヶ月以上3ヶ月未満
	○ - 13 点	3.指名停止1ヶ月以上2ヶ月未満
	○ - 10 点	4.指名停止2週間以上1ヶ月未満
	○ - 8 点	5.文書注意(三重県建設工事等資格(指名)停止措置要領第17条に基づく警告又は注意に限る)
	○ - 5 点	6.口頭注意(三重県建設工事等資格(指名)停止措置要領第17条に基づく警告又は注意に限る)
	○ - 5 点	7.事故が発生し、事故調査委員会による調査の結果、改善措置を求める通知があった場合 (但し、上記の1～6に該当する場合を除く)
① 本考査項目(7.法令遵守等)で評価する事例は、施工にあたって工事関係者が下記の適応事例で上表の措置があった場合に適用する。 ②「施工」とは、請負契約書の記載内容(工事名、工期、施工場所等)を履行することに限定する。 ③「工事関係者」とは、当該工事現場に従事する現場代理人、監理技術者、主任技術者、受注会社の現場従事職員及び当該工事にあたって下請契約し、その履行をするために従事する者に限定する。 【上記で評価する場合の適応事例】 ・ 1.入札前に提出した調査資料等が虚偽であった事実が判明した。 ・ 2.承諾なしに権利義務等第三者譲渡又は承継を行った。 ・ 3.宿舍環境等の使用人等に関する労働条件に問題があり、送検等された。 ・ 4.産業廃棄物処理法に違反する不法投棄、砂利採取法に違反する無許可採取等、関係法令に違反する事実が判明した。 ・ 5.当該工事関係者が贈収賄等により逮捕または公訴された。 ・ 6.建設業法に違反する事実が判明した。(例：一括下請負、技術者の専任違反等) ・ 7.入国管理法に違反する外国人の不法就労者が判明し、送検等された。 ・ 8.使用人等の就労に関する労働基準法に違反する事実が判明し、送検等された。 ・ 9.監督または検査の実施にあたり、職務の執行を妨げた。あるいは不当な政治力等の圧力をかけ、妨害した。 ・ 10.下請代金遅延防止法第4条に規定する下請代金の支払いを期日以内に行っていない。あるいは不当に下請代金の額を減じている。あるいはそれに類する行為がある。 ・ 11.過積載等の道路交通法違反により、逮捕または送検等された。 ・ 12.受注企業の社員に「指定暴力団」あるいは「指定暴力団の傘下組織(団体)」に所属する構成員、準構成員、企業舎弟等、暴力団関係者がいることが判明した。 ・ 13.下請けに暴力団関係企業が入っていることが判明した。あるいは暴力団対策法第9条に記されている、砂利、砂、防音シート、軍手等の物品の納入、作業員やガードマンの受け入れ、作業員用の自動販売機の設置等を行っている事実が判明した。 ・ 14.安全管理の措置が不適切であったために、死傷者を生じさせた工事関係者事故、または重大な損害を与えた公衆災害を起こした。 ・ 15.施工体制台帳、施工体系図が不備で、監督員から文書等による改善指示を行ったが、これに従わなかった。 ・ 16.受注者が適用除外でないにも関わらず社会保険等に未加入である建設業者と下請契約を締結した。(受注者が直接締結する請負契約に限る。) ・ 17.その他(1～16の適応事例以外に、故意に法令に違反した、故意に適正な公共事業の執行を妨げた、県民等に重大な影響を与えた場合等に理由を記載する。) 理由： 		

工事成績採点表(営繕工事)

検査員

考査項目	細別	対象	評価対象項目
2. 施行状況	I. 施工管理	☐ ①契約書第18条に基づく設計図書の照査結果を、適切に処理していることが確認できる。 ☐ ②施工計画書が、設計図書及び現場条件を反映した内容となっていることが確認できる。 ☐ ③施工計画書に出来形、品質確保のための記載があり、管理の方法が確認できる。 ☐ ④施工計画書の記載内容と現場施工方法が、一致していることが確認できる。 ☐ ⑤工事打合簿等の工事記録の整備が、適切に行われていることが確認できる。 ☐ ⑥使用する材料、機材の搬入後の管理が、適切であることが確認できる。 ☐ ⑦工程ごとの検査、確認の報告が、適切に行われていることが確認できる。 ☐ ⑧建設廃棄物の処分及び建設副産物等のリサイクルへの取り組みが、適切に行われていることが確認できる。 ☐ ⑨社内検査体制が構築され、関係書類、出来形、品質等の社内検査を工事全般にわたり実施し、品質証明に係る体制が有効に機能していることが確認できる。 ☐ ⑩独自のチェックリスト等の管理基準により、日常的に管理されていることが確認できる。 ☐ ⑪工事の関係書類及び資料が、適切に整理されていることが確認できる。 ☐ ⑫その他 理由:	
		(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 施工管理に関して、監督員から文書による改善指示を行った。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 施工管理に関して、監督員から文書による改善指示に従わなかった。	
評価			
a: 施工管理が特に優れている。 b: 施工管理が良好である c: 施工管理が適切である d: 施工管理がやや不適切である。 e: 施工管理が不適切である。			
該当項目が90%以上 a 該当項目が80%以上90%未満..... b 該当項目が60%以上80%未満 ... c 該当項目が60%未満 d	① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%) = (評価数 / 対象評価項目数) × 100 ④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全て該当してもc評価とする。		
	評価＝	評価値 %	

工事成績採点表(営繕工事)

検査員

考査項目	細別	対象	評価対象項目
3. 出来形及び出来ばえ	I. 出来形	☐ ①承諾図等が、設計図書を満足していることが確認できる。 ☐ ②施工図等が、設計図書を満足していることが確認できる。 ☐ ③施工計画書で定めた出来形の管理基準に基づき管理していることが確認できる。 ☐ ④出来形の管理記録が適切にまとめられており、結果が良好であることが確認できる。 ☐ ⑤出来形の管理方法を工夫していることが確認できる。 ☐ ⑥現場における出来形が、設計図書を満足し、適切な施工であることが確認できる。 ☐ ⑦現場における出来形が良好で、施工の精度が高い。 ☐ ⑧不可視部分となる出来形が、工事写真や施工記録により確認できる。 ☐ ⑨解体又は撤去工事の場合、撤去対象物の範囲等が確認でき、処分が適切であることが確認できる。 ☐ ⑩その他 理由:	
		(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 出来形の管理に関して、監督員が文書で指示を行い改善された。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 出来形が不適切であった為、工事請負契約書第31条に基づく修補指示を検査員が行った。	
評価			
a: 出来形が特に優れている。 a' 出来形が優れている b: 出来形が特に良好である。 b' : 出来形が良好である。 c: 出来形が適切である。 d: 出来形がやや不適切である。 e: 出来形が不適切である。			
該当項目が90%以上 a 該当項目が80%以上90%未満..... a' 該当項目が70%以上80%未満..... b 該当項目が60%以上70%未満 ... b' 該当項目が50%以上60%未満 ... c 該当項目が50%未満 d	① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%) = (評価数 / 対象評価項目数) × 100 ④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全て該当してもc評価とする。		
	評価＝	評価値 %	

※1。出来形の対象は「材料、機材」と「施工の完了したもの」であり、工事目的物の形状、寸法、位置、数量並びに管理記録と設計図書を対比することにより評価を行う。

工事成績採点表(営繕工事)

検査員

考査項目	細別	対象	評価対象項目
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質 建築工事		☐ ①材料・製品の品質が製作図等により確認でき、設計図書を満足していることが確認できる。 ☐ ②施工の各段階における完了時の試験及び記録の方法が、適切であることが確認できる。 ☐ ③品質管理記録の内容が、適切であることが確認できる。 ☐ ④品質の管理結果が、分りやすく整理されていることが確認できる。 ☐ ⑤施工の品質が適切であり、設計図書を満足していることが確認できる。 ☐ ⑥建具、ユニット等の性能及び機能に関する確認方法が適切であり、記録の内容が設計図書を満足していることが確認できる。 ☐ ⑦躯体工事における施工の品質が、施工記録等により確認でき、良好であることが確認できる。 ☐ ⑧内外仕上げ工事における施工の品質が施工記録等により確認でき、良好であることが確認できる。 ☐ ⑨その他の工事(躯体・内外仕上げを除く)における施工の品質が、施工記録等により確認でき、良好であることが確認できる。 ☐ ⑩不可視部分における品質管理のための工事写真、施工記録等が整備されていることが確認できる。 ☐ ⑪中間検査、出来高検査、随時検査での工夫や良好な施工の品質が、継続して確認できる。 ☐ ⑫その他 理由:
			(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 品質の管理に関して、監督員が文書で指示を行い改善された。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 品質が不適切であったため、工事請負契約書第31条に基づく修補指示を検査員が行った。
評価			
a: 品質が特に優れている。 a': 品質が優れている b: 品質が特に良好である。 b': 品質が良好である。 c: 品質が適切である。 d: 品質がやや不適切である。 e: 品質が不適切である。			
該当項目が90%以上 a 該当項目が80%以上90%未満..... a' 該当項目が70%以上80%未満..... b 該当項目が60%以上70%未満 ... b' 該当項目が50%以上60%未満 ... c 該当項目が50%未満 d	① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%) = (評価数 / 対象評価項目数) × 100 ④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全て該当してもc評価とする。		
	評価＝	評価値 %	

※1. 目的物の品質の水準を評価すること。

※2. 品質の対象は、「材料、機材」と「施工が完了したもの(システムを含む)」があり、工事目的物の品質及び品質管理に関する各種の記録と設計図書を対比することにより技術的な評価を行う。

工事成績採点表(営繕工事)

検査員

考査項目	細別	対象	評価対象項目
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質 電気設備工事 受変電設備工事 通信設備工事		☐ ①機材の品質が承諾図等により確認でき、設計図書を満足していることが確認できる。 ☐ ②施工の各段階における完了時の試験及び記録の方法が、適切であることが確認できる。 ☐ ③品質管理記録の内容が、適切であることが確認できる。 ☐ ④品質の管理結果が、分かりやすく整理されていることが確認できる。 ☐ ⑤施工の品質が適切であり、設計図書を満足していることが確認できる。 ☐ ⑥施工の品質が、試験や検査等の結果の記録により、優れていることが確認できる。 ☐ ⑦システムの性能及び機能に関する試運転等の確認方法が適切であり、記録の内容が設計図書を満足していることが確認できる。 ☐ ⑧システムの性能及び機能に関する試運転の確認方法に、工夫がある。 ☐ ⑨不可視部分における品質管理のための工事写真、施工記録等が整備されていることが確認できる。 ☐ ⑩中間検査、出来高検査、随時検査での工夫や良好な施工の品質が、継続して確認できる。 ☐ ⑪運転、点検上の表示及び危険箇所などの表示等が明確で解りやすい。 ☐ ⑫その他 理由：
			(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 品質の管理に関して、監督員が文書で指示を行い改善された。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 品質が不適切であったため、工事請負契約書第31条に基づく修補指示を検査員が行った。
評価			
a: 品質が特に優れている。 a': 品質が優れている b: 品質が特に良好である。 b': 品質が良好である。 c: 品質が適切である。 d: 品質がやや不適切である。 e: 品質が不適切である。			
該当項目が90%以上 a 該当項目が80%以上90%未満..... a' 該当項目が70%以上80%未満..... b 該当項目が60%以上70%未満 ... b' 該当項目が50%以上60%未満 ... c 該当項目が50%未満 d	① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%) = (評価数 / 対象評価項目数) × 100 ④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全て該当してもc評価とする。		
	評価＝	評価値 %	

※1. 目的物の品質の水準を評価すること。

※2. 品質の対象は、「材料、機材」と「施工が完了したもの(システムを含む)」があり、工事目的物の品質及び品質管理に関する各種の記録と設計図書を対比することにより技術的な評価を行う。

工事成績採点表(営繕工事)

検査員

考査項目	細別	対象	評価対象項目
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質 冷暖房衛生設備工事 機械設備工事		☐ ①機材の品質が、承諾図等により確認でき、設計図書を満足していることが確認できる。 ☐ ②施工の各段階における完了時の試験及び記録の方法が、適切であることが確認できる。 ☐ ③品質管理記録の内容が、適切であることが確認できる。 ☐ ④品質の管理結果が、分りやすく整理されていることが確認できる。 ☐ ⑤施工の品質が適切であり、設計図書を満足していることが確認できる。 ☐ ⑥施工の品質が、試験や検査等の結果の記録により、優れていることが確認できる。 ☐ ⑦システムの性能及び機能に関する試運転等の確認方法が適切であり、記録の内容が設計図書を満足していることが確認できる。 ☐ ⑧システムの性能及び機能に関する試運転の確認方法に、工夫がある。 ☐ ⑨不可視部分における品質管理のための工事写真、施工記録等が整備されていることが確認できる。 ☐ ⑩中間検査、出来高検査、随時検査での工夫や良好な施工の品質が、継続して確認できる。 ☐ ⑪運転・点検上の表示及び危険箇所などの表示等が明確で解りやすい。 ☐ ⑫その他 理由：
			(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 品質の管理に関して、監督員が文書で指示を行い改善された。 (減点)該当すればe評価とする。 ☐ 品質が不適切であったため、工事請負契約書第31条に基づく修補指示を検査員が行った。
評価			
a: 品質が特に優れている。 a': 品質が優れている。 b: 品質が特に良好である。 b': 品質が良好である。 c: 品質が適切である。 d: 品質がやや不適切である。 e: 品質が不適切である。			
該当項目が90%以上 a 該当項目が80%以上90%未満.... a' 該当項目が70%以上80%未満.... b 該当項目が60%以上70%未満 ... b' 該当項目が50%以上60%未満 ... c 該当項目が50%未満 d			① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%) = (評価数 / 対象評価項目数) × 100 ④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全て該当してもc評価とする。
	評価＝		評価値 %

※1. 機械設備工事とは、エレベーター、エスカレーター設備工事等の建設業法における機械器具設置工事をいう。

※2. 目的物の品質の水準を評価すること。

※3. 品質の対象は、「材料、機材」と「施工が完了したもの(システムを含む)」があり、工事目的物の品質及び品質管理に関する各種の記録と設計図書を対比することにより技術的な評価を行う。

工事成績採点表(営繕工事)

検査員

考査項目	細別	対象	評価対象項目
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ. 出来ばえ 建築工事	☐ ①きめ細かな施工がなされ、取り合いの納まりや端部まで仕上がりが良い。 ☐ ②関連工事(工種)又は既存部分との調整がなされ、調和が良い仕上がりである。 ☐ ③使い勝手や使用者の安全に対する配慮に優れている。 ☐ ④仕上がりの状態が良好で、作動状態も良好である。 ☐ ⑤色調が均一であり、色むら等が無く、全体的な美観が良好である。 ☐ ⑥材料、製品の割付や通り等が良く、全体的な出来ばえが良好である。 ☐ ⑦保全に配慮した施工がなされている。 ☐ ⑧その他 理由:	
		(減点)該当すればd評価とする。 ☐ 出来ばえが劣っている。	
評価			
a: 全体的な完成度が優れている。 b: 全体的な完成度が良好である。 c: 全体的な完成度が適切である。 d: 全体的な完成度が劣っている。			
該当項目が90%以上..... a 該当項目が80%以上90%未満..... b 該当項目が80%未満 c	① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%) = (評価数 / 対象評価項目数) × 100 ④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全て該当してもc評価とする。		
	評価＝	評価値 %	

※1. 全体的な仕上がり状態、機能を評価する。

※2. 出来ばえの評価は、全体的な仕上がり状態、形状、配置及び関連工事との調和、目的物としての機能などについて、観察、計測等により評価を行う。

工事成績採点表(営繕工事)

検査員

考査項目	細別	対象	評価対象項目
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ. 出来ばえ 電気設備工事 受変電設備工事 通信設備工事	☐	①きめ細かな施工がなされ、取り合いの納まりや端部まで仕上がりが良い。
		☐	②関連工事(工種)又は既存部分との調整がなされ、調和が良い仕上がりである。
		☐	③機器又はシステムとして、運転状態が正常であり、性能が優れている。
		☐	④環境負荷低減への対策が優れている。
		☐	⑤運転操作及び保守点検等の容易さを確保するための配慮がなされている。
		☐	⑥全体的な美観が良い。
		☐	⑦その他
			理由:
			(減点)該当すればd評価とする。
			☐ 出来ばえが劣っている。
評価			
a: 全体的な完成度が優れている。 b: 全体的な完成度が良好である。 c: 全体的な完成度が適切である。 d: 全体的な完成度が劣っている。			
該当項目が90%以上・・・ a 該当項目が80%以上90%未満・・・ b 該当項目が80%未満 c		① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%) = (評価数 / 対象評価項目数) × 100 ④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全て該当してもc評価とする。	
	評価＝	評価値 %	

※1. 全体的な仕上がり状態、機能进行评估する。

※2. 出来ばえの評価は、全体的な仕上がり状態、形状、配置及び関連工事との調和、目的物としての機能などについて、観察、計測等により評価を行う。

工事成績採点表(営繕工事)

検査員

考查項目	細別	対象	評価対象項目
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ. 出来ばえ 冷暖房衛生設備工事 機械設備工事	☐	①きめ細かな施工がなされている。
		☐	②関連工事(工種)又は既存部分との調整がなされ、調和が良い仕上がりである。
		☐	③機器又はシステムとして、運転状態が正常であり、性能が優れている。
		☐	④環境負荷低減への対策が優れている。
		☐	⑤運転操作及び保守点検等の容易さを確保するための配慮がなされている。
		☐	⑥全体的な美観が良い。
		☐	⑦その他
			理由:
			(減点)該当すればd評価とする。
			☐ 出来ばえが劣っている。
評価			
a: 全体的な完成度が優れている。 b: 全体的な完成度が良好である。 c: 全体的な完成度が適切である。 d: 全体的な完成度が劣っている。			
該当項目が90%以上..... a		① 「対象」欄にチェックボックスがある項目は、評価すべき項目の場合にチェックし、評価すべき項目でない場合は空白のままとする。	
該当項目が80%以上90%未満..... b		② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%)計算の値で評価する。	
該当項目が80%未満..... c		③ 評価値(%) = (評価数 / 対象評価項目数) × 100	
		④ 評価対象項目数が2項目以下の場合は、全て該当してもc評価とする。	
	評価＝	評価値 %	

※1. 機械設備工事とは、エレベーター、エスカレーター設備工事等の建設業法における機械器具設置工事をいう。

※2. 全体的な仕上がり状態、機能の評価する。

※3. 出来ばえの評価は、全体的な仕上がり状態、形状、配置及び関連工事との調和、目的物としての機能などについて、観察、計測等により評価を行う。